



==PDFをフリーソフトで作ろう==



PDF作成のおおまかな流れ

Windows XP環境での説明です。その他のシステムでの不具合は保障しません。あしからず。

PDFを作成するソフトは全て、もとはPostScriptです。

後は各社が、使いやすいようにインターフェースを作っていた、という具合です。(そのプログラムは大変なものですが)

下の表の2とその下の＃と一緒に動作します。3とその下の＃も一緒に動作します。

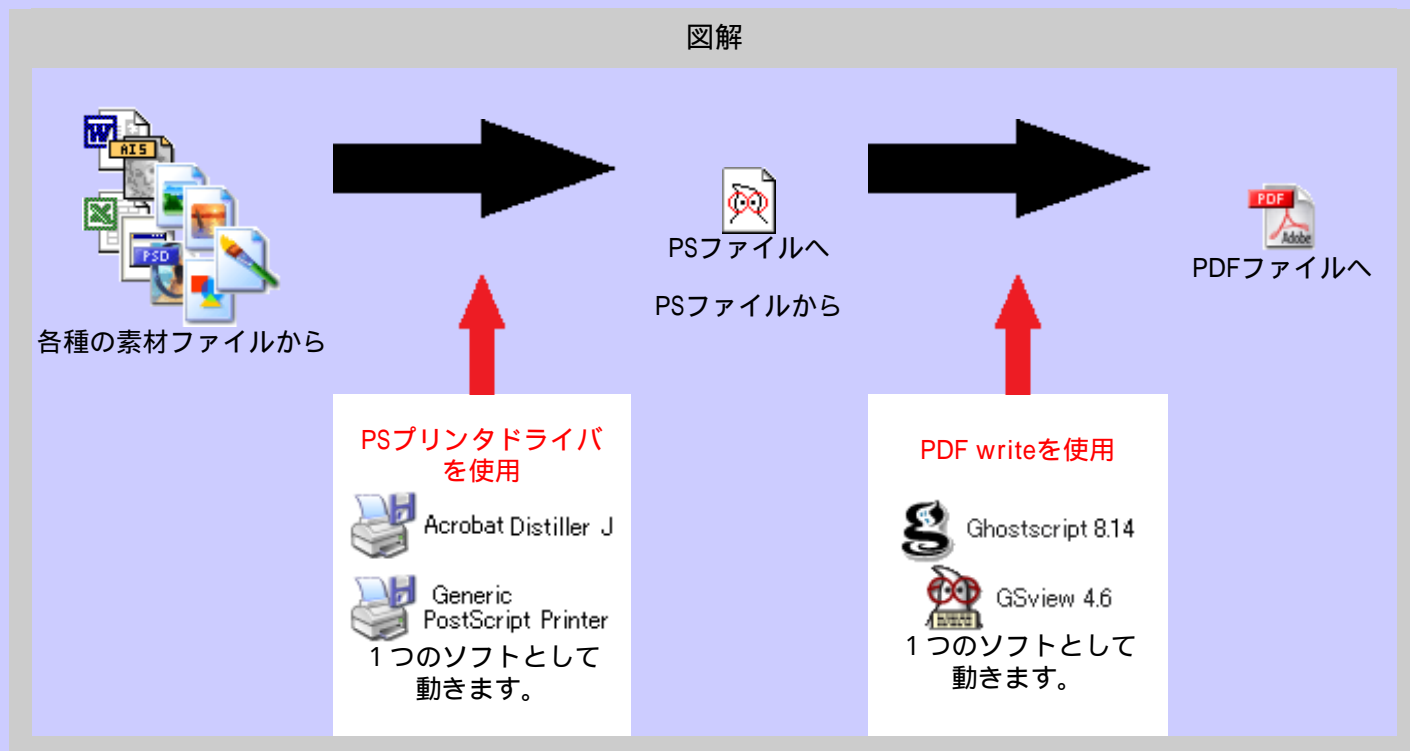
簡単にいうと、片方は基盤で、もう片方は機能拡張といったところです。「素材を用意」を別にすれば、

2つのステップだけで、PDFが作れます。やってみたい人の為に詳しい作成法を紹介します。

いきなり難しく理解できない方は[こちらをご覧ください](#)。

\	順序	ソフトの名称	概要	ダウンロードサイト
1	素材を用意する	-	-	-
2	プリンターでPSファイルを出力	Adobe PPD Files	カラー出力	Adobe・英語サイト
＃	＃	Generic PostScript Printer	プリンタドライバ(白黒)	Adobe・英語サイト
3	PSファイルをPDFへ変換	Ghostscript 8.14	PDF write 機能を使用	Ringサーバー・FTPサイト
＃	＃	GSview 4.6	convertソフト	Ringサーバー・FTPサイト

図解



ダウンロードの下準備===圧縮・解凍ソフトを用意する===

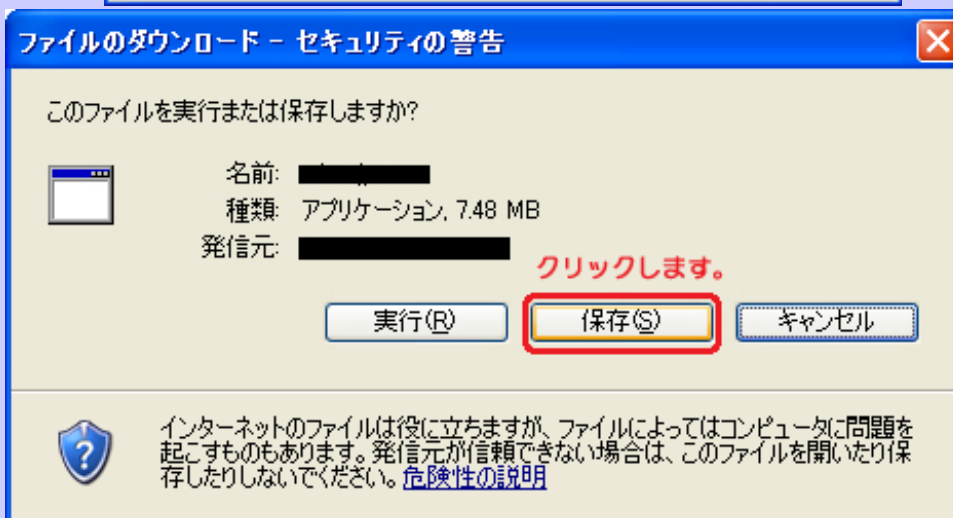
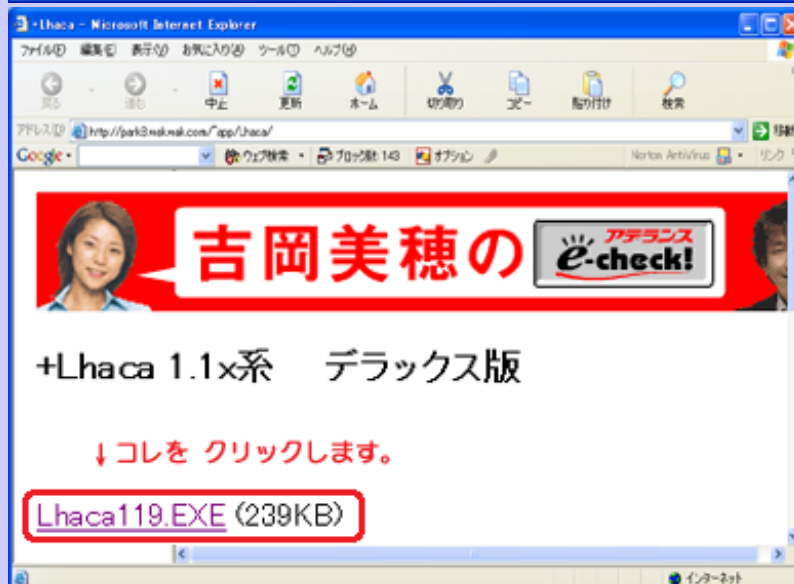
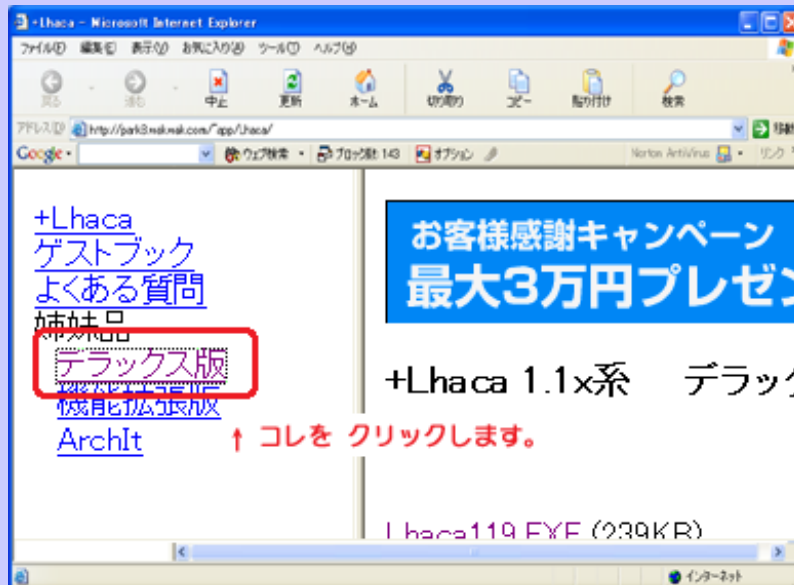
圧縮・解凍ソフトはお持ちですか?すでにお持ちなら、[目次へ](#)進んでください。

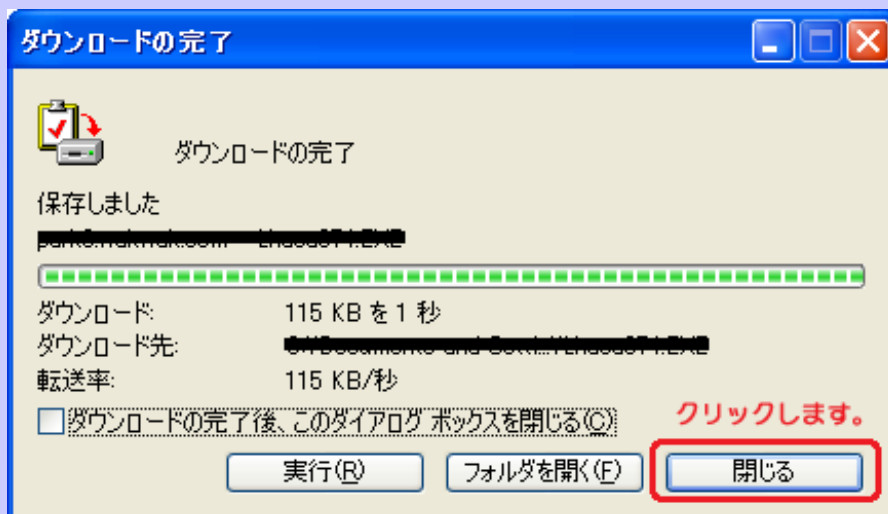
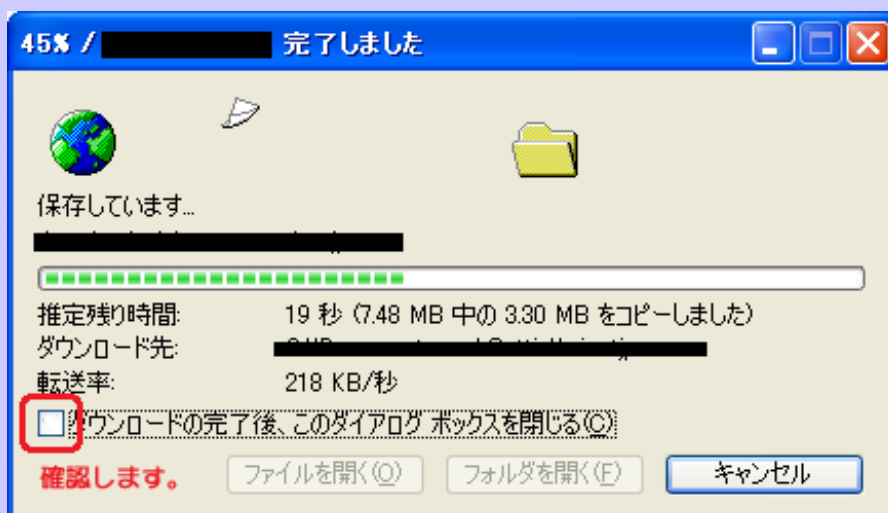
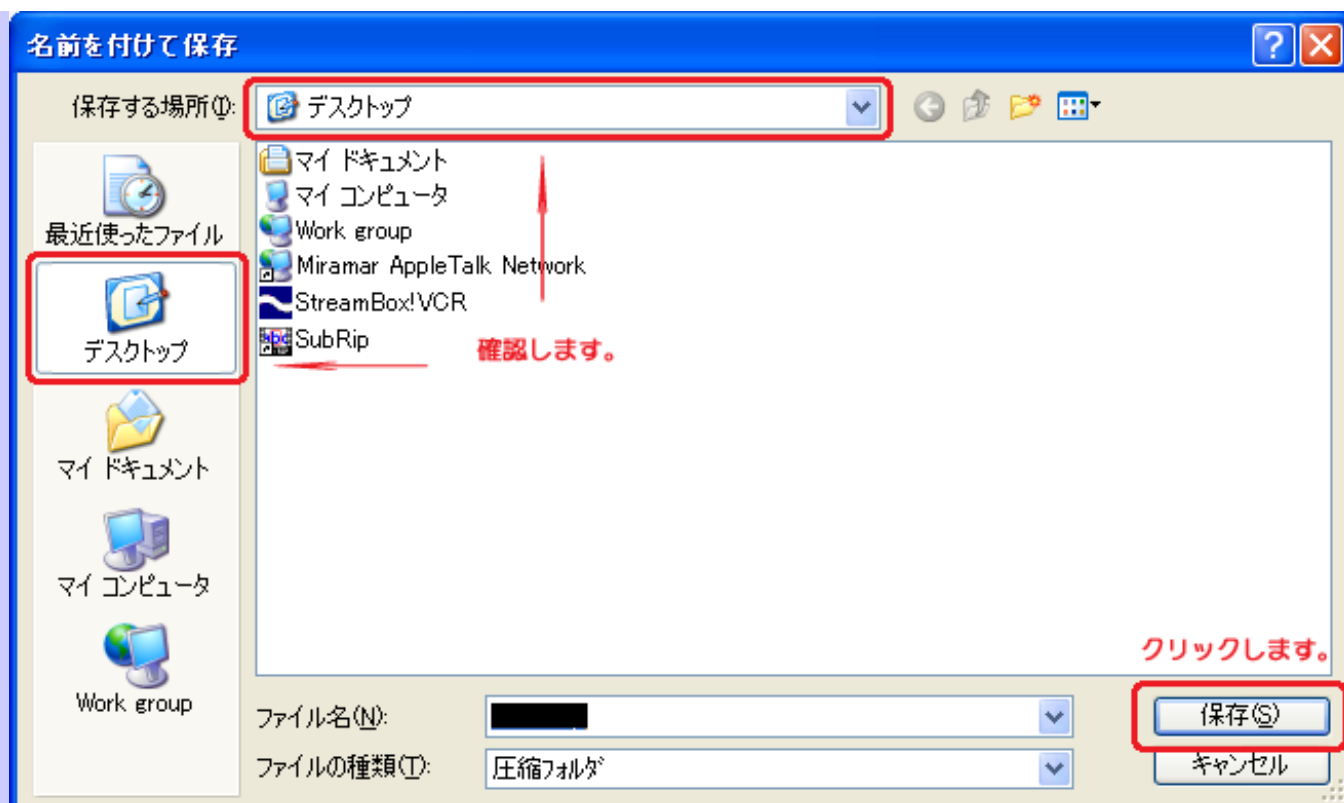


お持ちでないなら、[Lhaca.exe](#) +[Lhaca 1.19 デラックス版](#)が必要です。

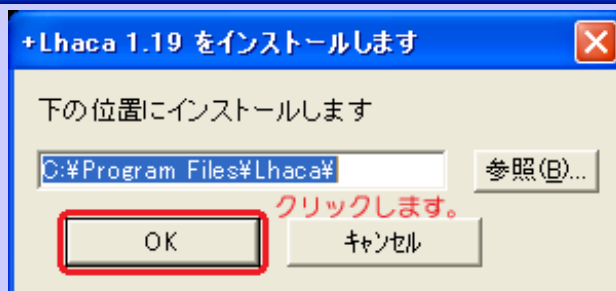
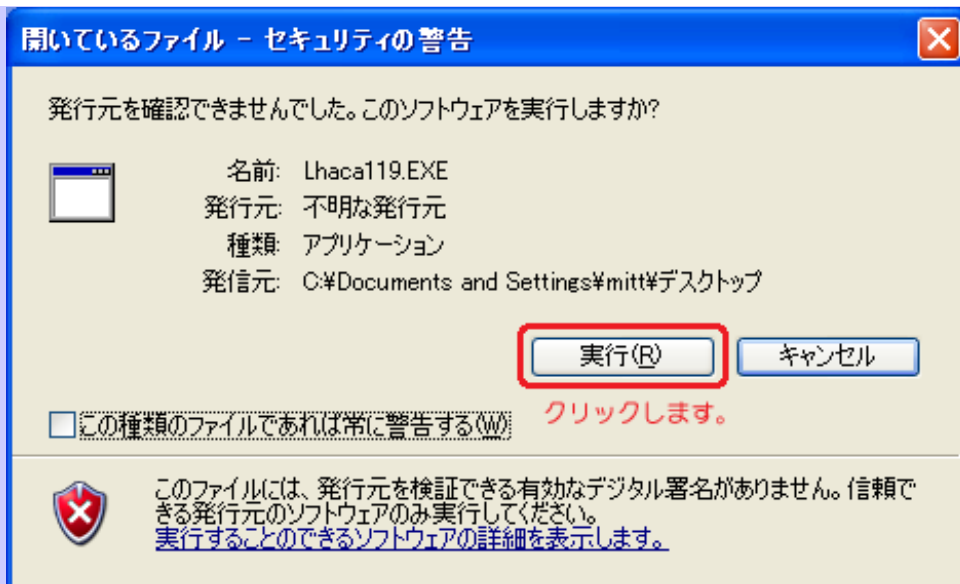
[アイコンをクリック](#)してダウンロードして下さい。

サイトが開いたら、[下図を参考](#)に進めてください。





デスクトップに Lhaca119.EXE というアイコンができます。これをダブルクリックしてください。



インストールが完了すると、.txtが立ち上がるので、大体適当に読んで終了します。



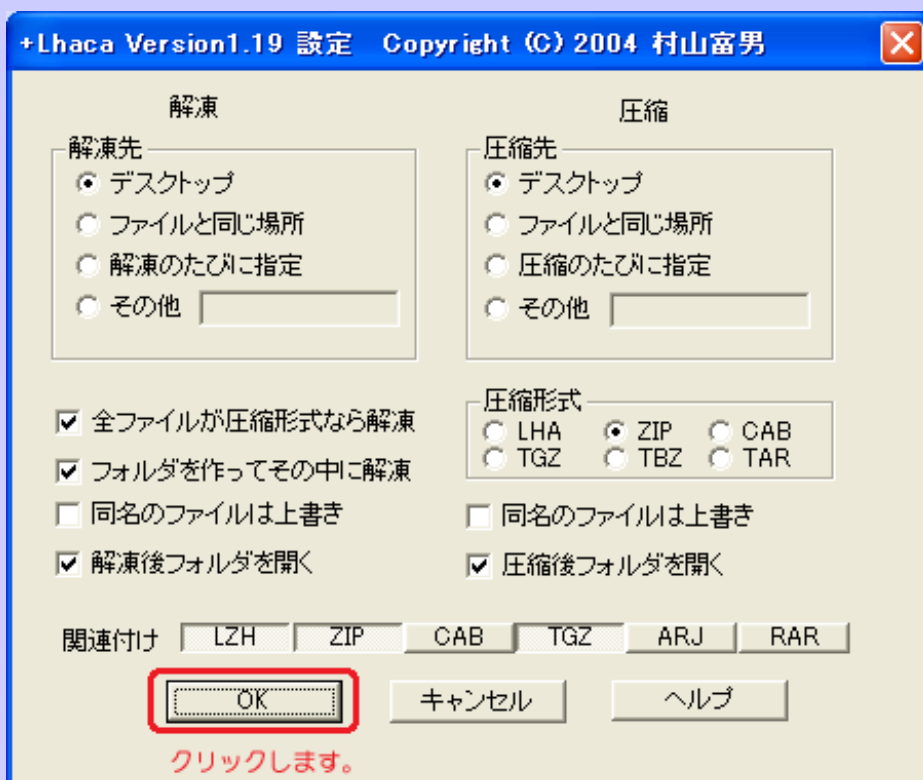
先ほどの Lhaca119.EXE

は削除してもかまいません。



デスクトップに Lhaca.exe

ができます。
これをダブルクリックします。



チェックボックスやラジオボタン等が上図と同じか確認して、OKを押します。

これで「+Lhaca 1.19 デラックス版」の説明は終わりです。

なお、「村山富男さんのサイト」は、'04.9月23日のものです。

今後、URLやバージョンなどのアクセス法が、変わる可能性があります。

PDF作成ソフトのダウンロードとインストール

Windows XP環境での説明です。その他のシステムでの不具合は保障しません。あしからず。

目次

- PSプリンタドライバのダウンロードとインストール
 - Adobe PPD Filesのダウンロード
 - Generic PostScript Printerのダウンロード
 - Adobe PPD Filesのインストール・Generic PostScript Printerのインストール
 - PSプリンタドライバの設定
- pdfwriteのダウンロードとインストール
 - Ghostscript 8.14のダウンロード
 - GSview 4.6のダウンロード
 - Ghostscript 8.14のインストール
 - GSview 4.6のインストール
 - GhostscriptをGSview 4.6で使う為の設定
 - 設定の確認
- 設定の再確認
 - アンインストールの仕方と参考資料の紹介

PSプリンタドライバのダウンロードとインストール

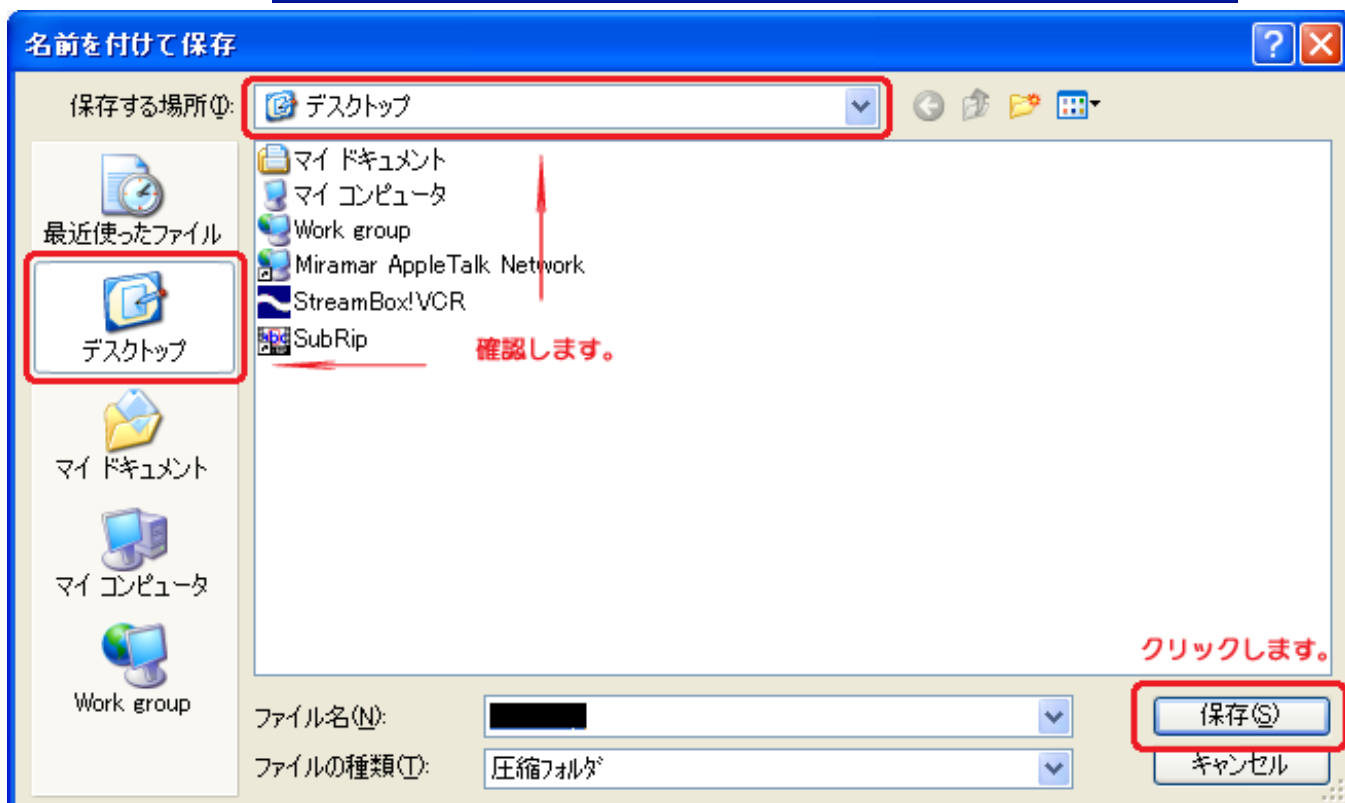
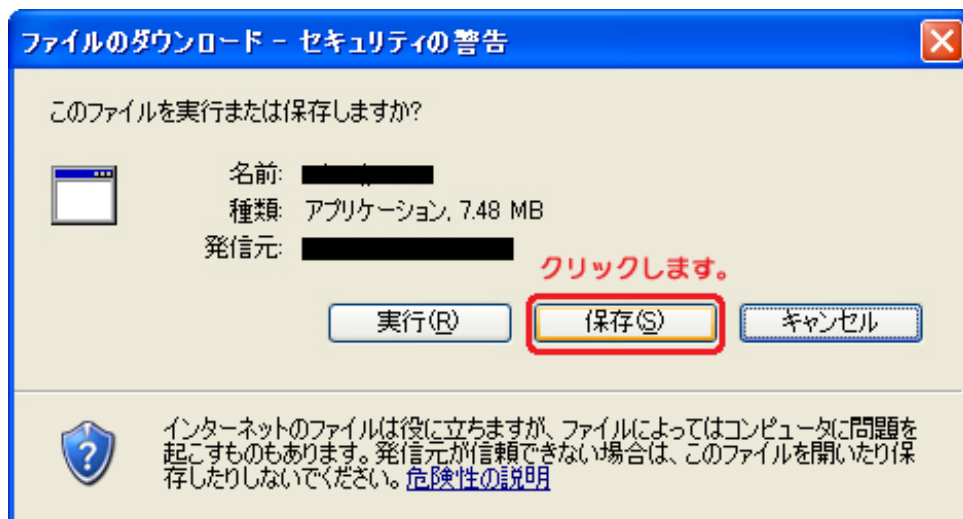
Adobe PPD Filesのダウンロード

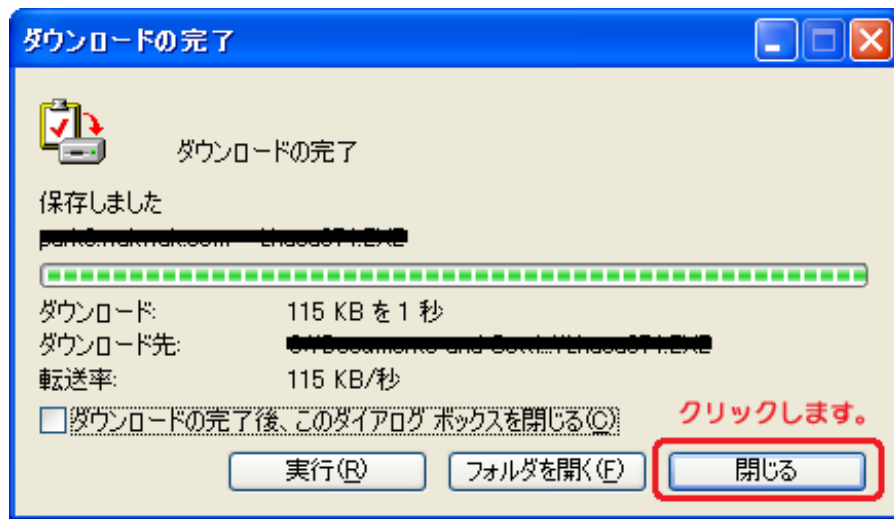
Adobe社・英語サイト・<http://www.adobe.com/support/downloads/detail.jsp?ftpID=204>

上をクリックしてダウンロードサイトを開きます。 **download** ボタンをクリックします。

次のページが開きます。 **download** ボタンをクリックします。

ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。





デスクトップに adobe.zip アイコンがダウンロードされました。

[目次に戻る](#)

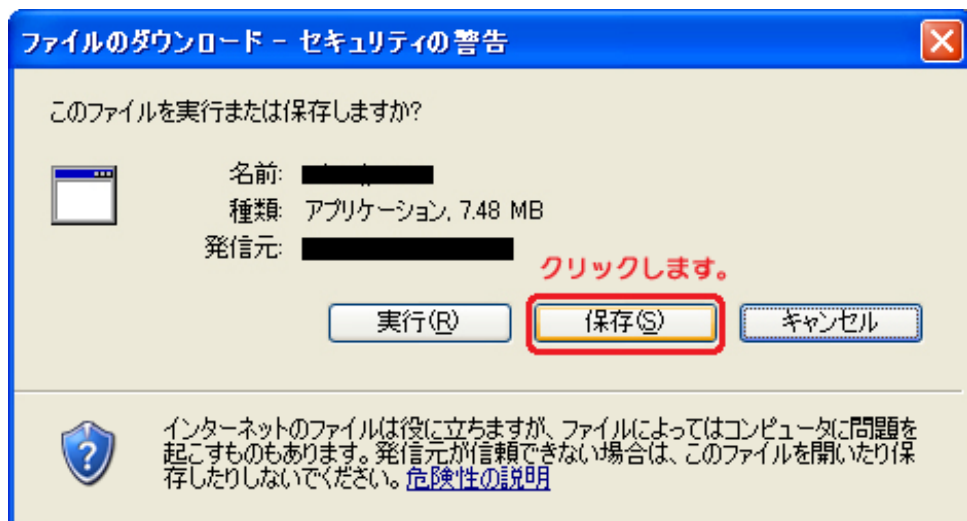
Generic PostScript Printerのダウンロード

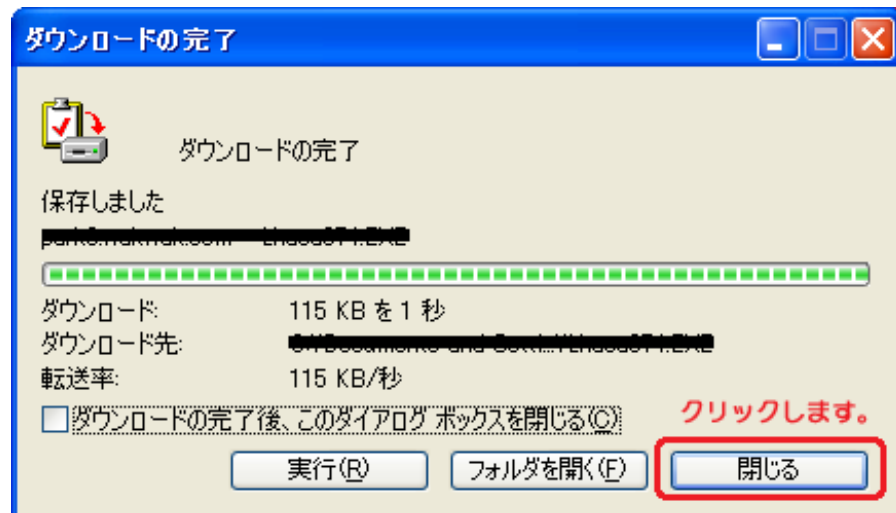
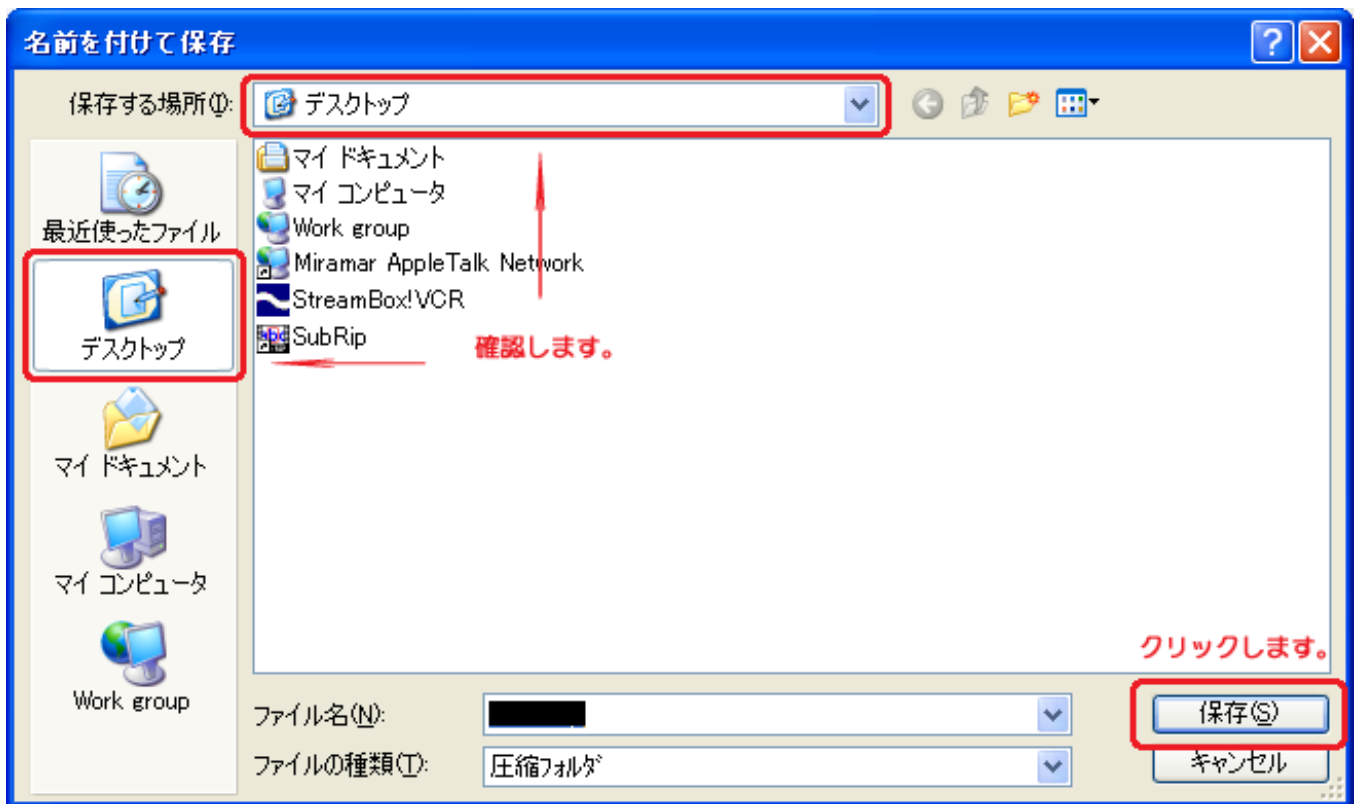
Adobe・英語サイト・<http://www.adobe.com/support/downloads/detail.jsp?ftpID=1505>

上をクリックしてダウンロードサイトを開きます。 **download** ボタンをクリックします。

次のページが開きます。 **download** ボタンをクリックします。

[ダイアログボックス](#)が開きますので、下図を参考に進めてください。







デスクトップに winstipn.exe アイコンがダウンロードされました。

[目次に戻る](#)

PSプリンタドライバのインストール

Adobe PPD Filesは、白黒出力しかできないGeneric PostScript Printer(プリンタドライバ)を **カラー出力**させるための機能拡張ファイルです。

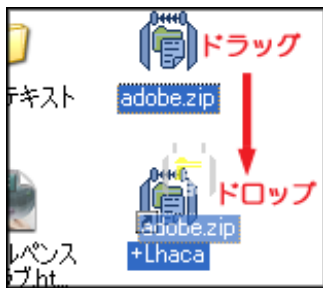
Adobe PPD Filesの解凍をします。インストーラがないので、手動でインストールします。

デスクトップにできた  を、同じくデスクトップの  にドラッグ・ドロップします。

adobe.zip

Lhaca.exe

こんな感じです。



Lhaca.exeの設定のとおり、解凍されたフォルダがデスクトップに作られ、その後開きます。
 (設定してあれば、「adobe.zip」をダブルクリックしても解凍されます。)
 その中の「Adobe」というフォルダをダブルクリックで開きます。

次に「スタート」「マイ コンピュータ」「ローカルディスク:C」「WINDOWS」「system」の順に開いていきます。

デスクトップに「¥adobe¥Adobe」フォルダと「C:¥WINDOWS¥system」フォルダの2つが開いた状態になります。
 「Adobe」フォルダの中身を全て選択して、「system」フォルダの中へドラッグ・ドロップします。
 これで、Adobe PPD Filesがシステムにインストールされました。フォルダを2つとも閉じます。
 デスクトップにある「adobe」フォルダは、中身が空になったので、削除してかまいません。
 難しく理解できない方は[こちら](#)をご覧ください。

次にGeneric PostScript Printerのインストールをします。

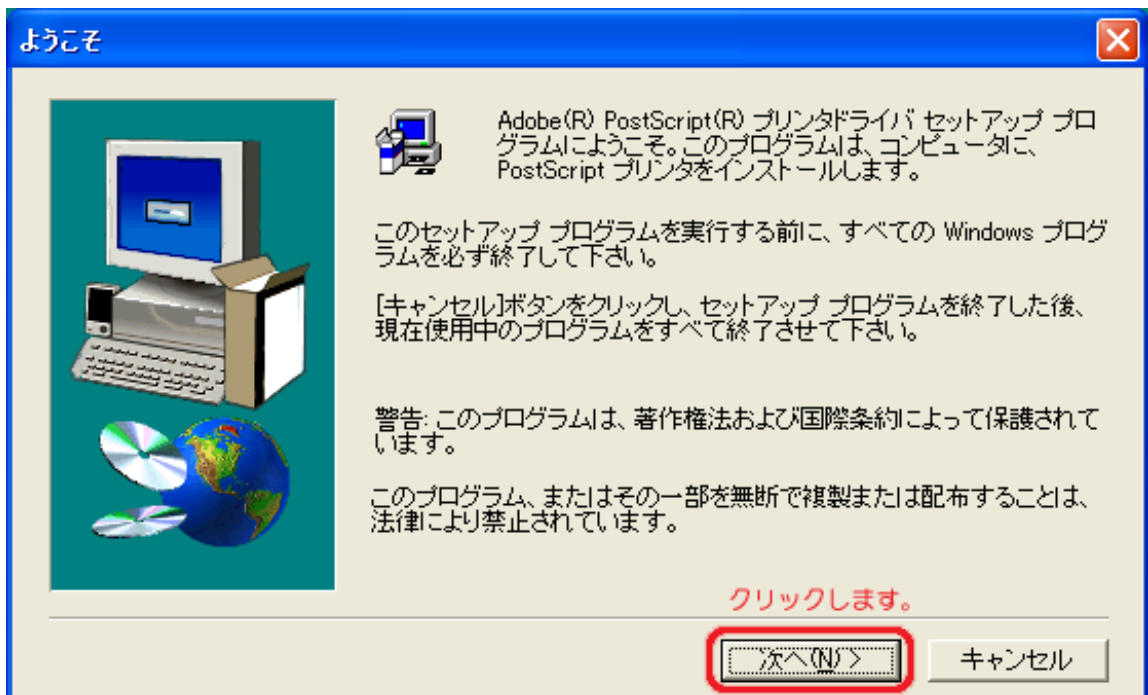
先ほどの「Adobe PPD Files」を手動でインストールするのとは違い、これ自体が「Generic PostScript Printer」のインストーラです。
 デスクトップの



winstjpn.exe

アイコンをダブルクリックします。

ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。



エンドユーザー使用許諾契約書



以下の使用許諾契約書をお読みください。画面を動かすには、スクロールバーを使ってください。

ADOBE SYSTEMS INCORPORATED
エンドユーザ使用許諾契約書 (電子版)

確認します。

お客様へのご注意:

お客様は以下に記載の内容への同意の意思表示をすることによって、特に第2条及び第4条で規定する使用、並びに第5条で規定する保証及び責任を含む本契約上のすべての条項を承諾したものとみなされます。お客様は、自ら署名した他の契約書と同様、本契約書は執行可能であることを了承します。

本契約書は、PostScript(®)ドライバ/ソフトウェアと他のソフトウェアおよび関連する説明資料(以下「本ソフトウェア」と称します)に付属します。

お客様が本契約書に同意することにより、以下の条項に従うことを条件として、Adobe は本ソフトウェアを使用する非独占的なライセンスを許諾します。

使用許諾契約書の条項に同意する場合は、[同意する]をクリックしてください。同意されない場合は[同意しない]をクリックしてインストールを中止してください。同意されないと、ソフトウェアを使用することはできません。

クリックします。

< 戻る(B)

同意する

同意しない

プリンタの接続方法



プリンタの接続方法を選択してください。

コンピュータに直接接続(ローカルプリンタ)(L)

確認します。

ネットワークに接続(ネットワークプリンタ)(E)

クリックします。

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル

ローカルポートの設定



このプリンタで使いたいポートをクリックしてください。

ポートの設定を表示または変更するには、[ポートの設定]をクリックしてください。

使用可能なポート:

COM1:	ローカル	ポート
COM2:	ローカル	ポート
COM3:	ローカル	ポート
COM4:	ローカル	ポート
FILE:	ローカル	ポート
LPT1:	ローカル	ポート
LPT2:	ローカル	ポート
LPT3:	ローカル	ポート

クリックします。

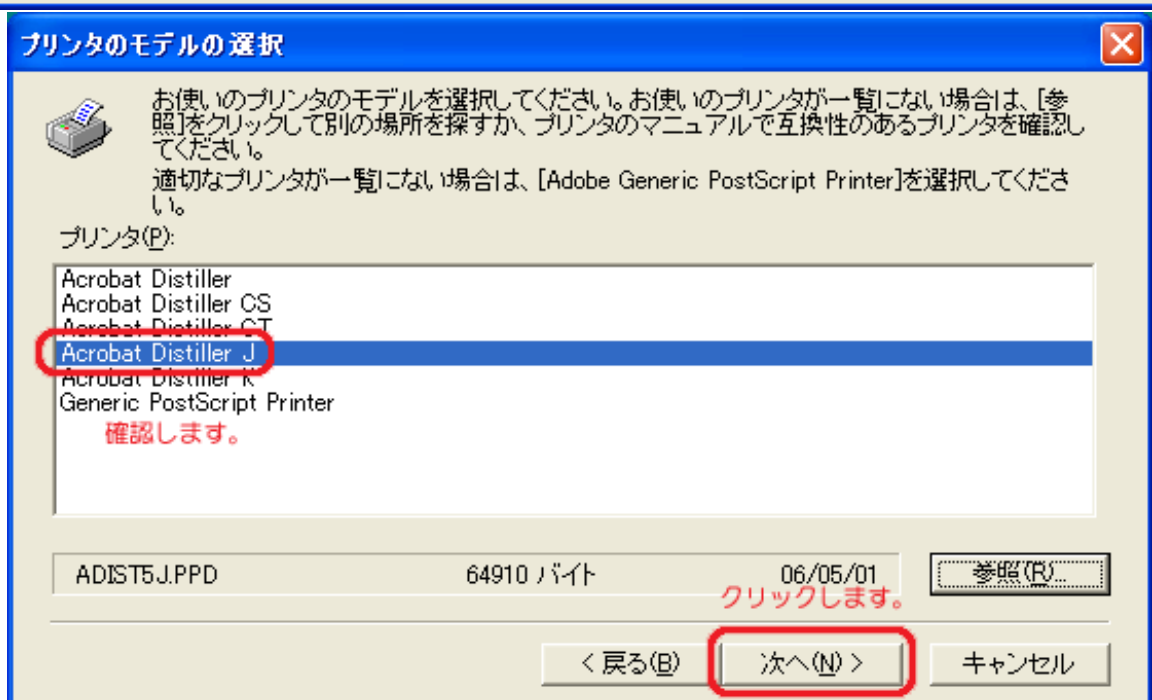
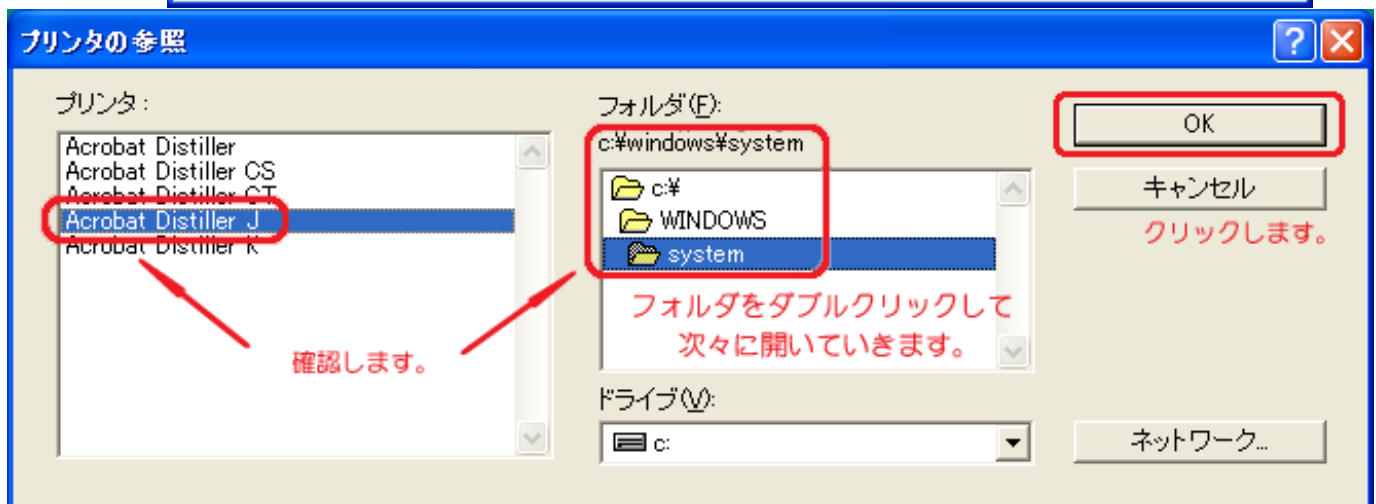
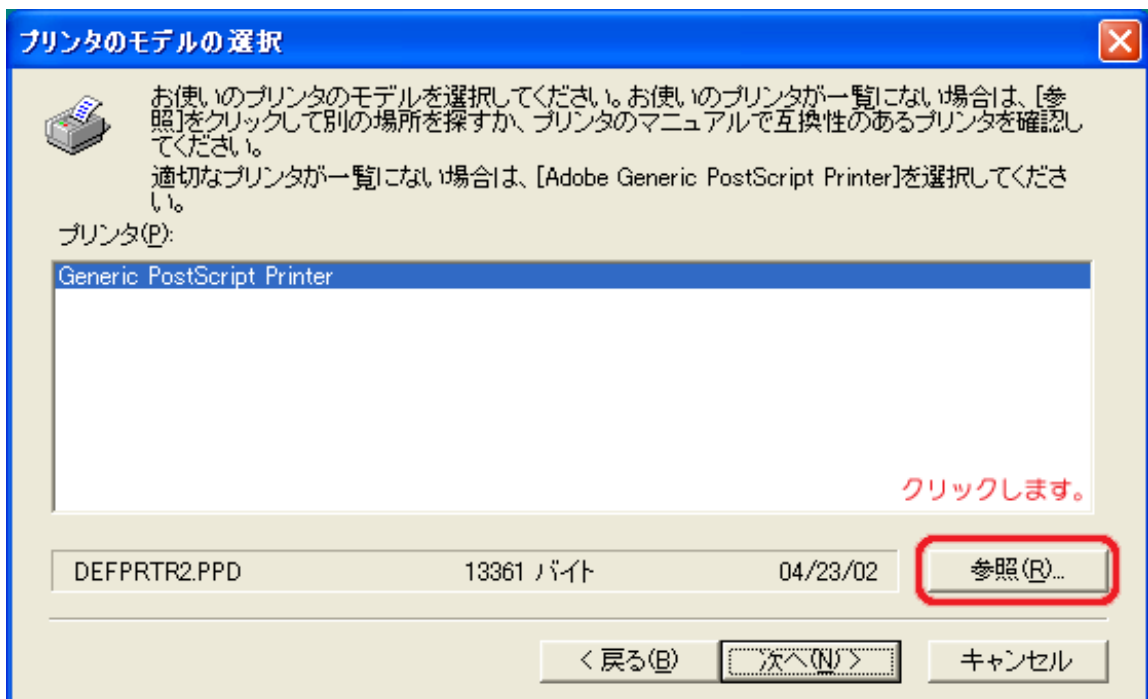
ポートの設定(O)...

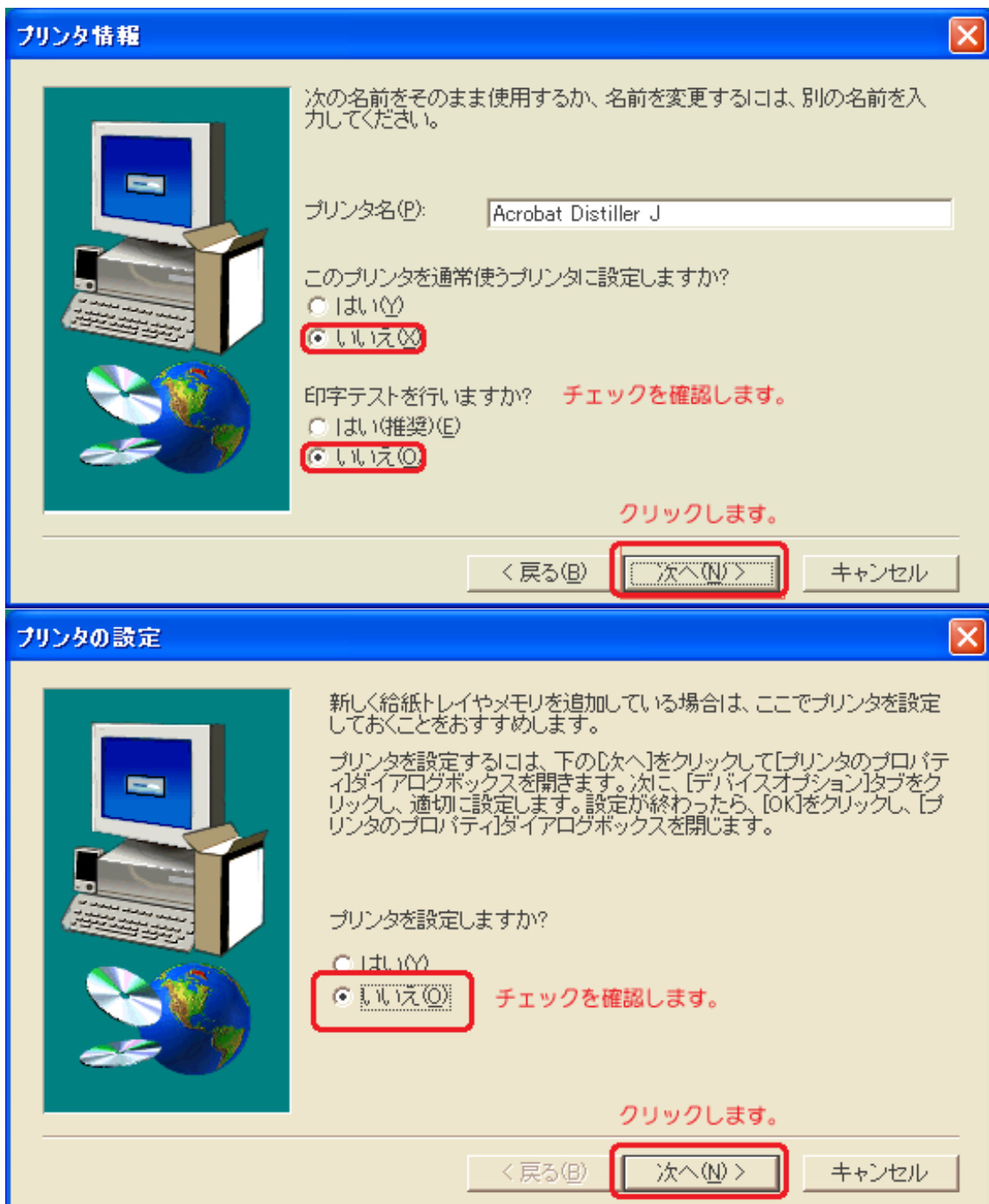
クリックします。

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル





完了を押してインストールは終了です。デスクトップの



winstjpn.exe

は、削除してもかまいません。

[目次に戻る](#)

PSプリンタドライバの設定

「スタート」 「プリンタとFAX」をクリックします。「プリンタとFAX」フォルダが開きます。

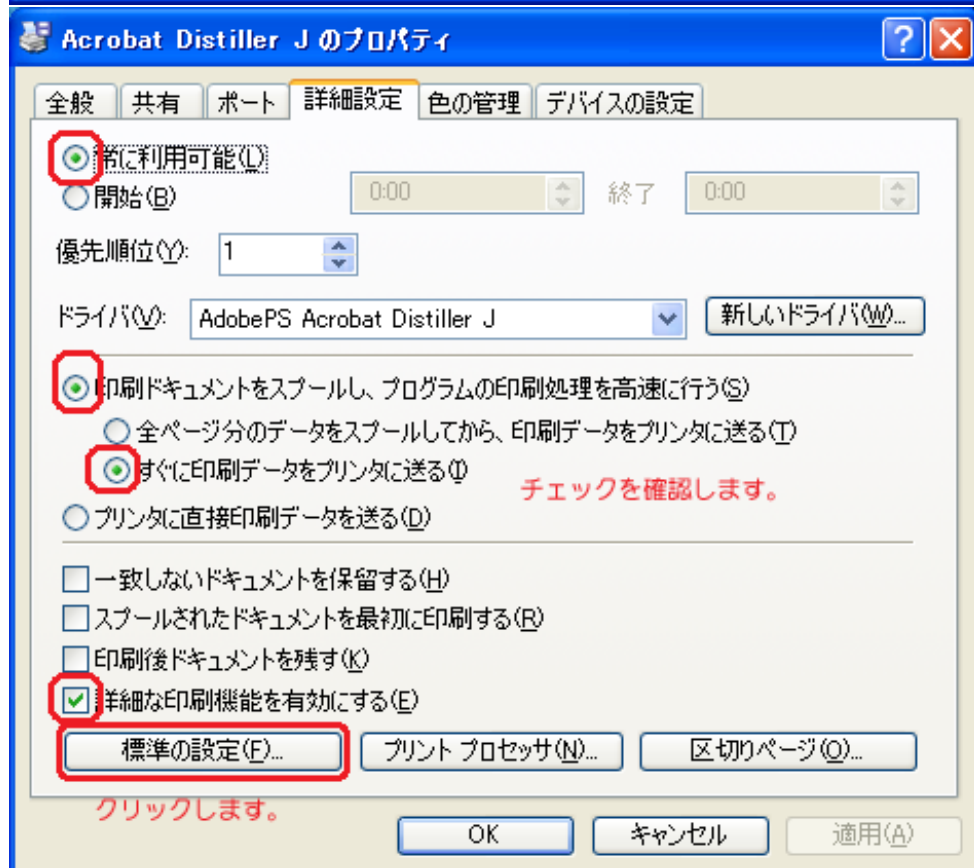
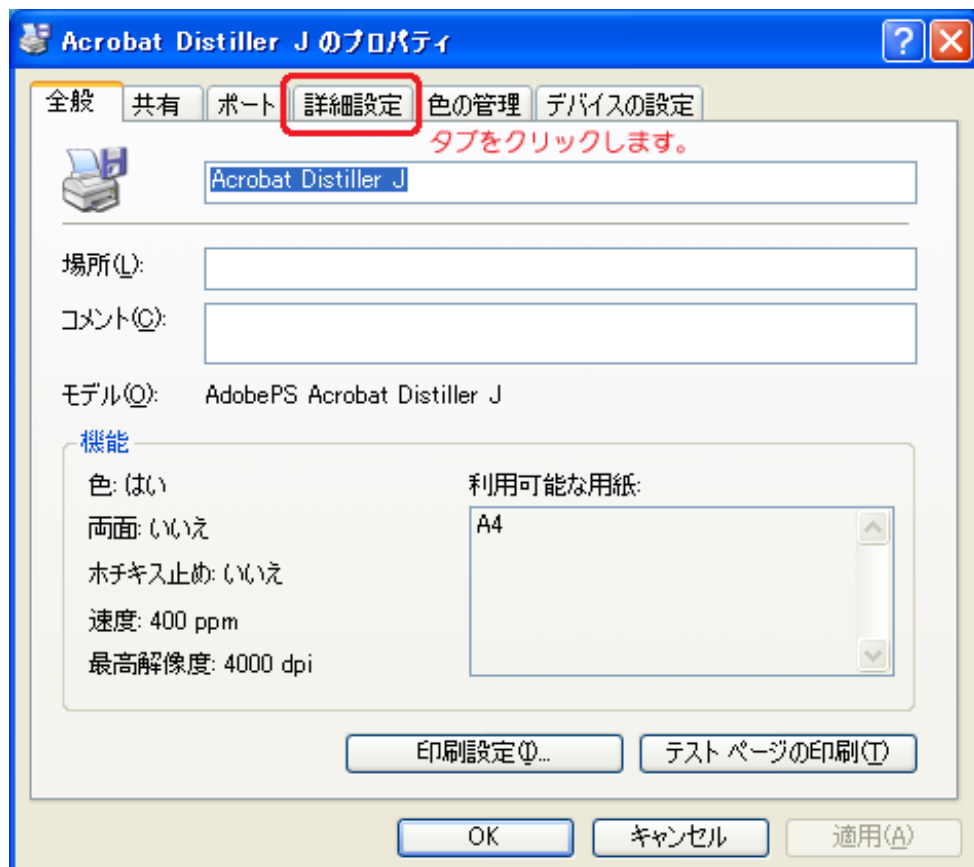


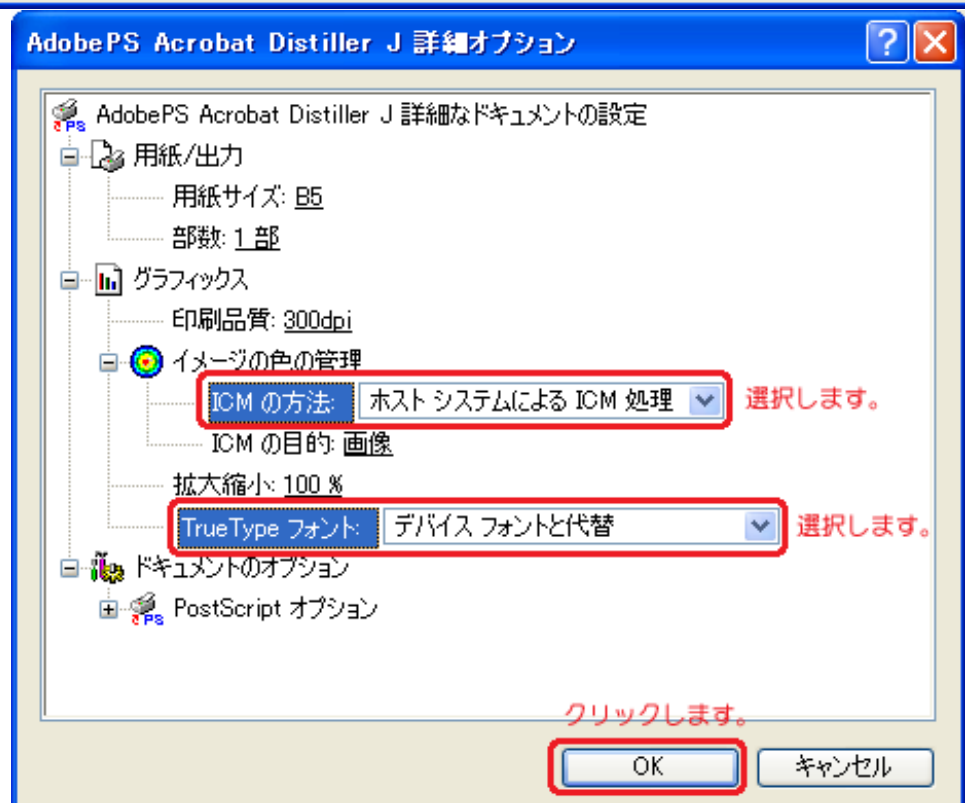
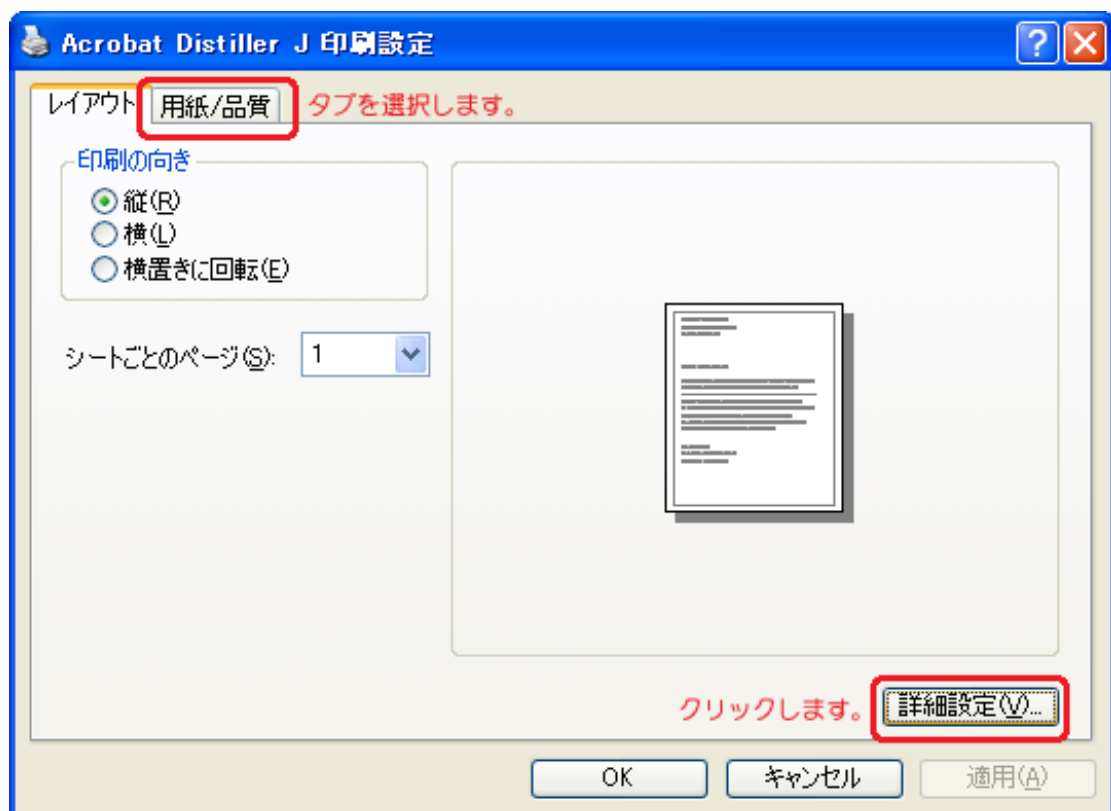
Acrobat
Distiller J

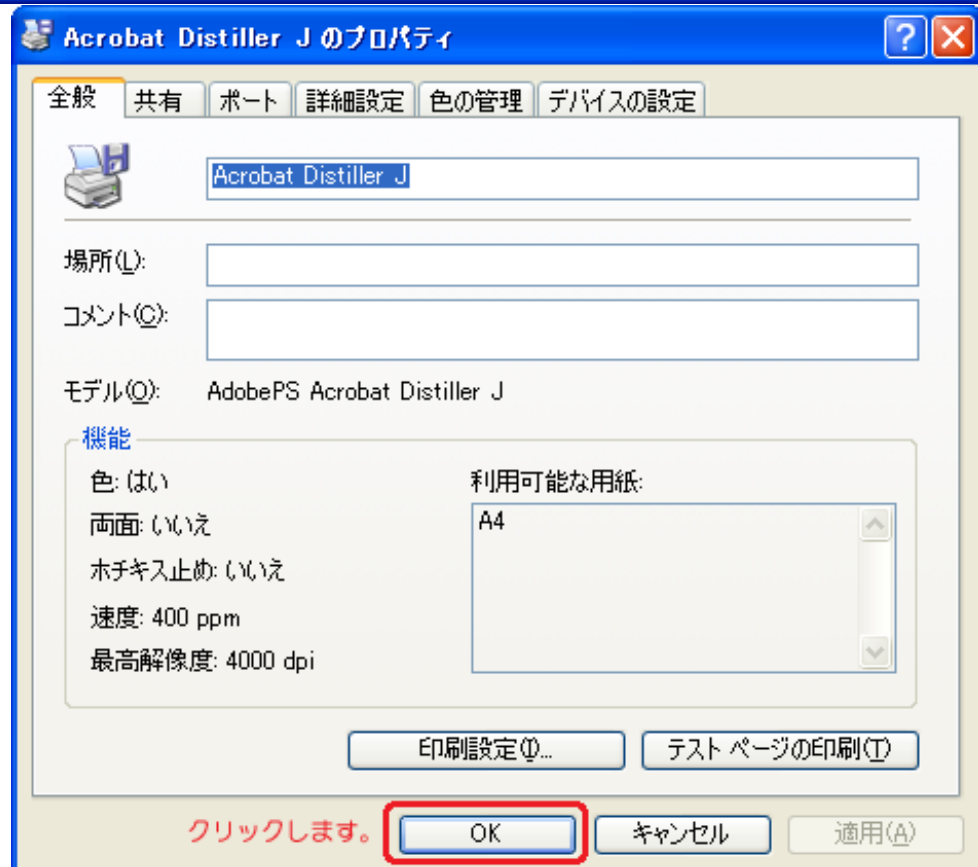
アイコンに「？」がついてなければ、正常にインストールされました。

アイコンを右クリックして「プロパティ」を選びます。

ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。







これでPSプリンタの設定は終わりです。「プリンタとFAX」フォルダを閉じてください。
なお、私の環境では、Generic PostScript Printerが既にはいていたので、その辺の動作の確認はしていません。
この設定で、なんとかなっていますが、もっと良い設定があるかもしれません。色々試してみてもいいでしょう。

[目次に戻る](#)

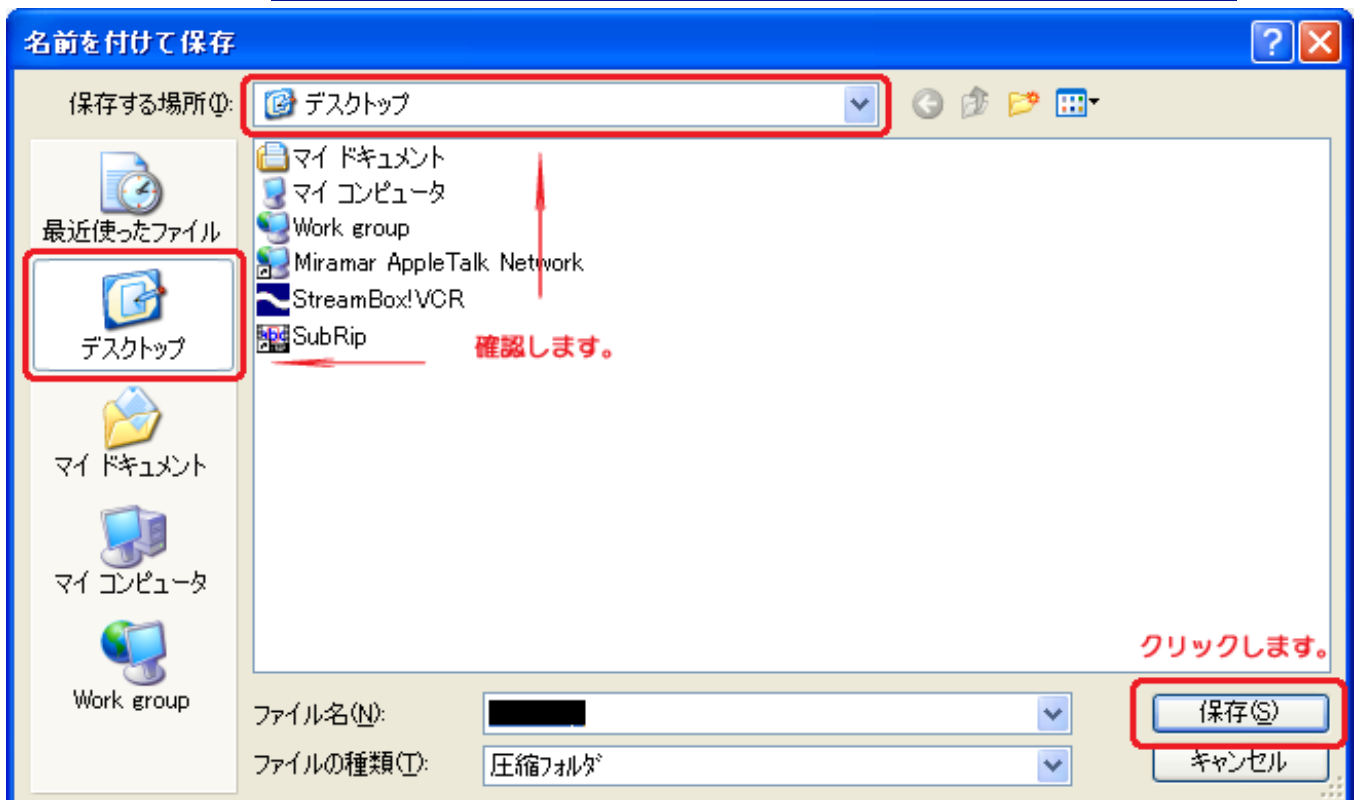
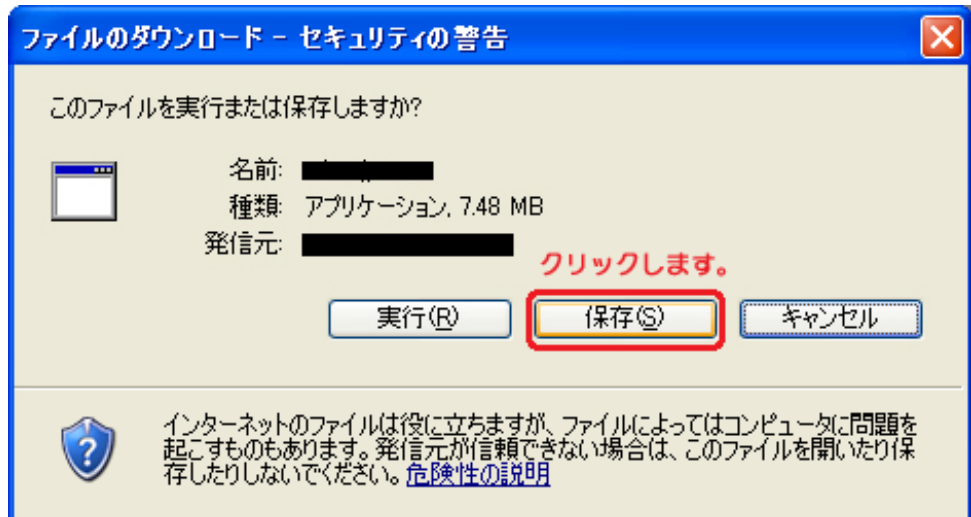
pdfwriteのダウンロードとインストール

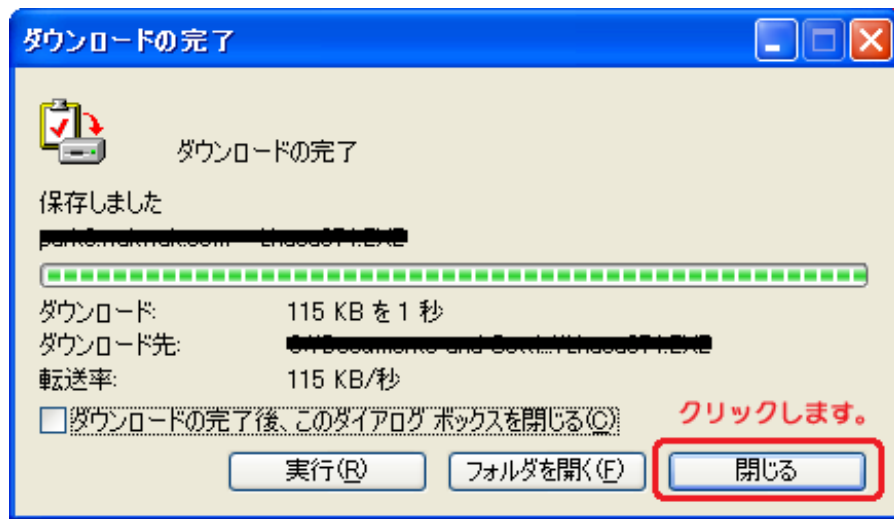
AFPL Ghostscript 8.14(日本語版)のダウンロード

Ringサーバー・FTPサイト・<ftp://ftp.u-aizu.ac.jp/pub/tex/ptex-win32/gs/>

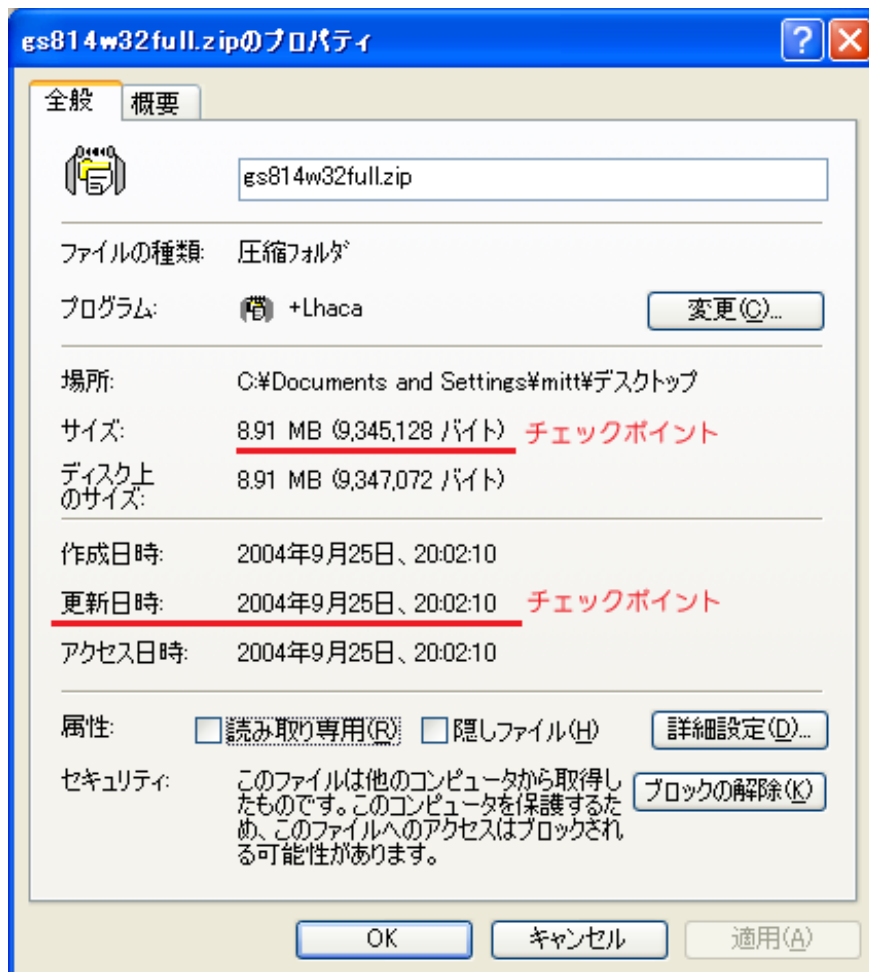


上をクリックしてダウンロードサイトを開きます。gs814w32full.zip アイコンをダブルクリックします。ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。





デスクトップに `gs814w32full.zip` アイコンがダウンロードされました。
右クリックしてプロパティを見てみましょう。



確認したら、プロパティウインドウを閉じてください。

[目次に戻る](#)

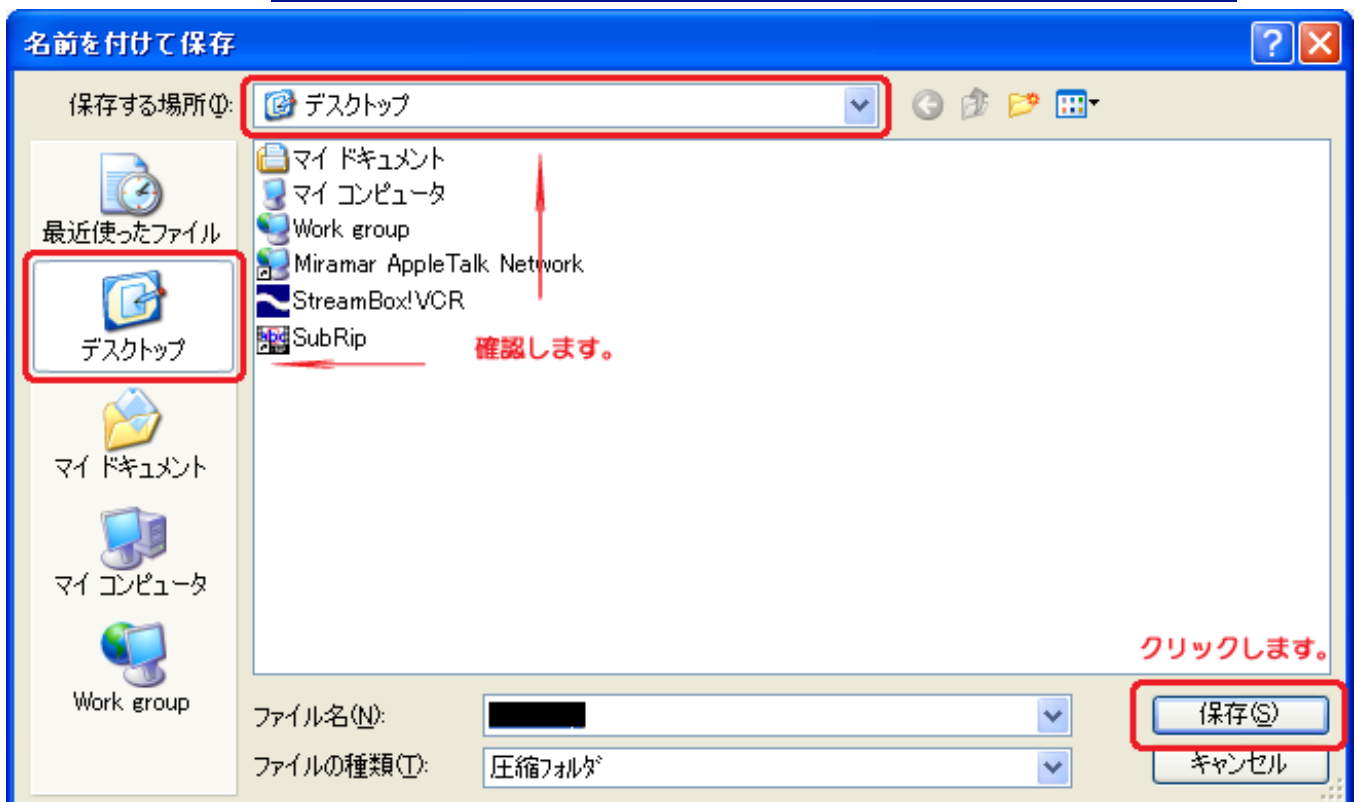
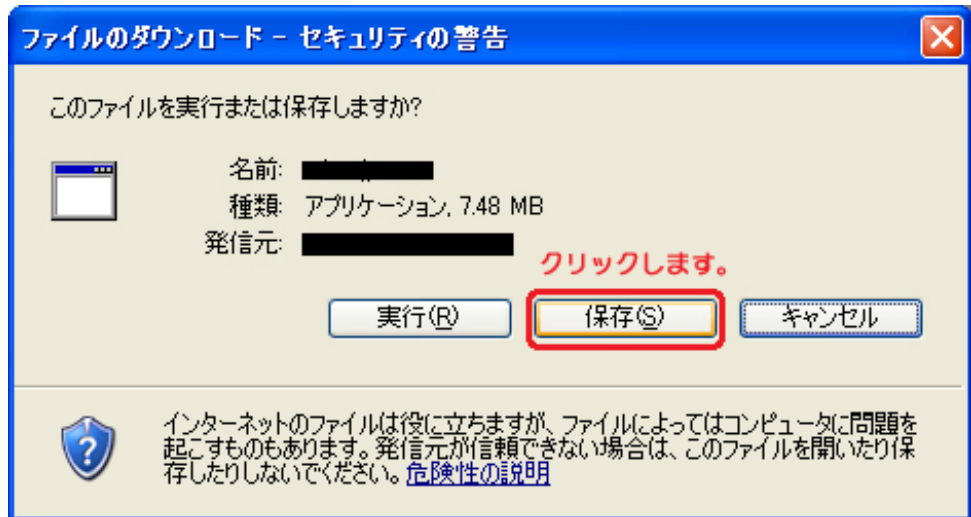
GSview 4.6のダウンロード

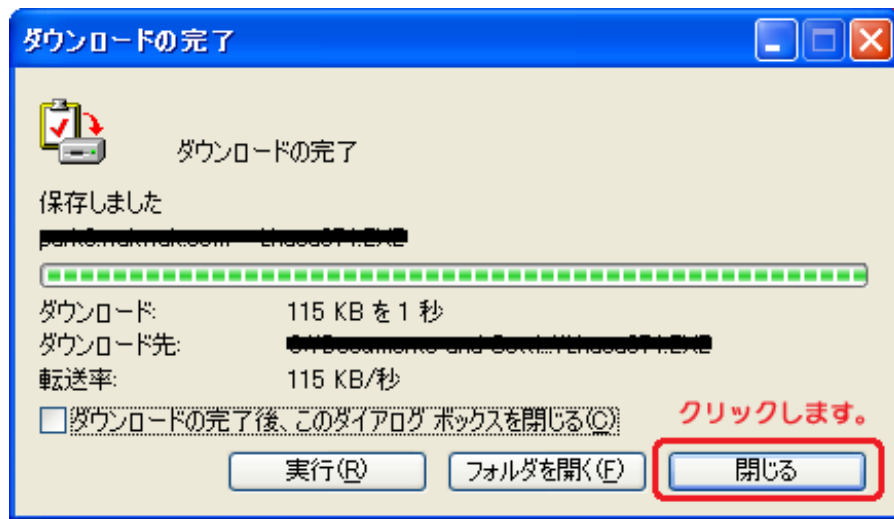
Ringサーバー・FTPサイト・<ftp://ftp.u-aizu.ac.jp/pub/tex/CTAN/support/ghostscript/ghostgum/>



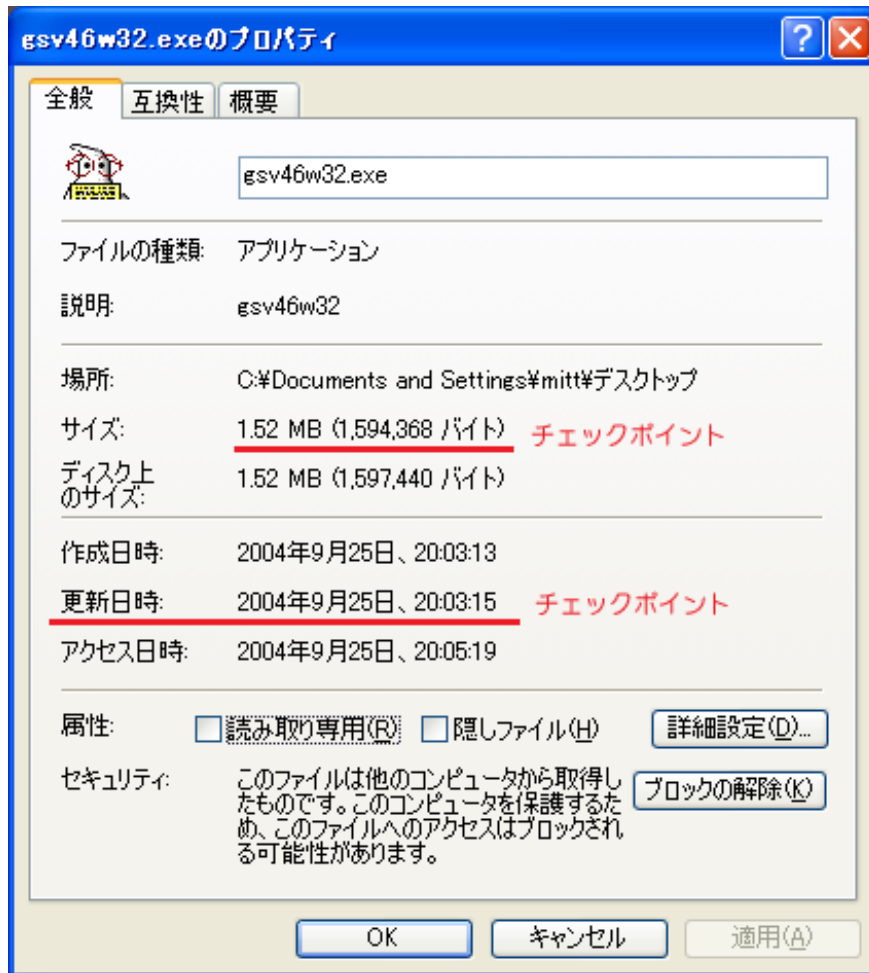
上をクリックしてダウンロードサイトを開きます。gsv46w32.exe アイコンをダブルクリックします。

ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。





デスクトップに gsv46w32.exe アイコンがダウンロードされました。
右クリックしてプロパティを見てみましょう。



確認したら、プロパティウインドウを閉じてください。

[目次に戻る](#)

AFPL Ghostscript 8.14のインストール

デスクトップにできた



gs814w32full.zip

アイコンをダブルクリックします。何も起こらない場合はこちらを参考にしてください。

い。

Lhaca.exeの設定のとおり、解凍された



gs814w32full

フォルダがデスクトップに作られ、その後開きます。

その中の、

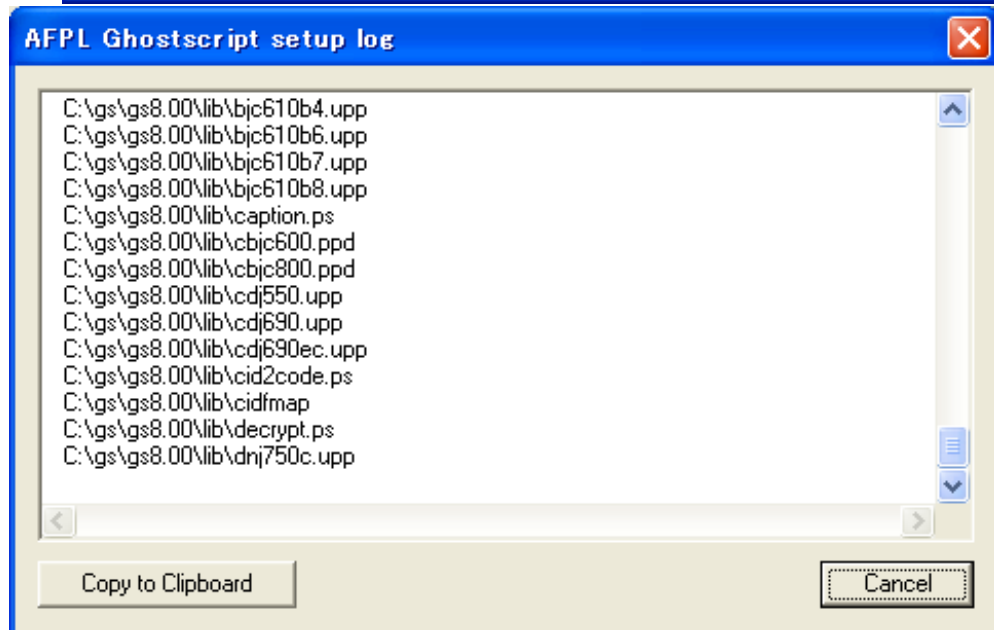
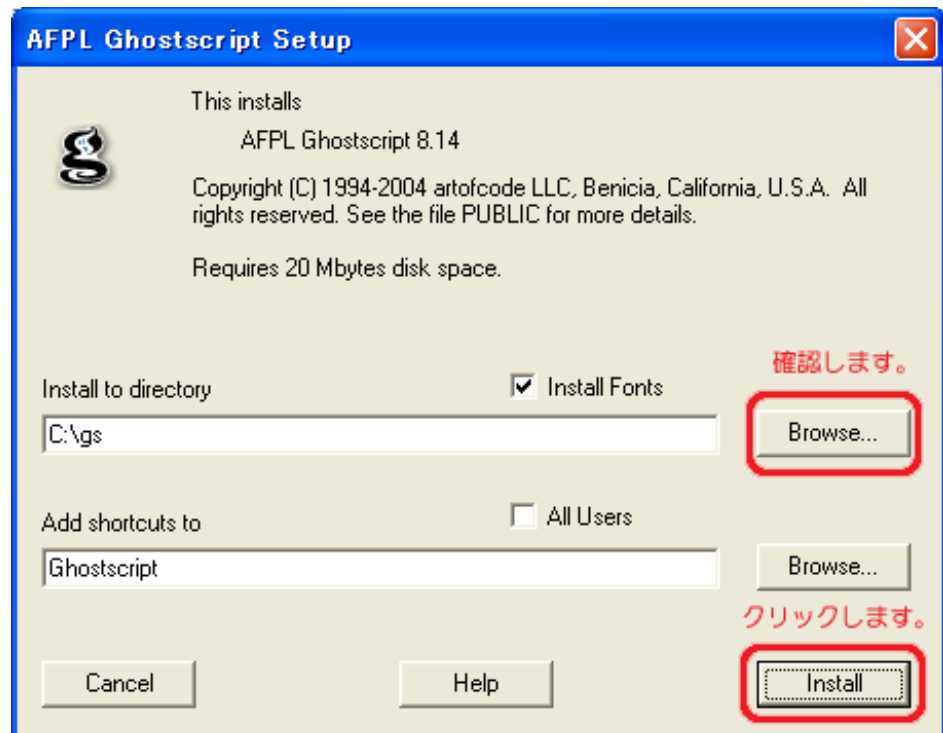


setupgs.exe

アイコンをダブルクリックします。

これ自体が「AFPL Ghostscript 8.14」のインストーラです。

ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。



インストールが完了すると画面が消えます。ショートカットウィンドウが開くので閉じてください。

これで、AFPL Ghostscript 8.14のインストールは終了です。

デスクトップの



gs814w32full.zip

や

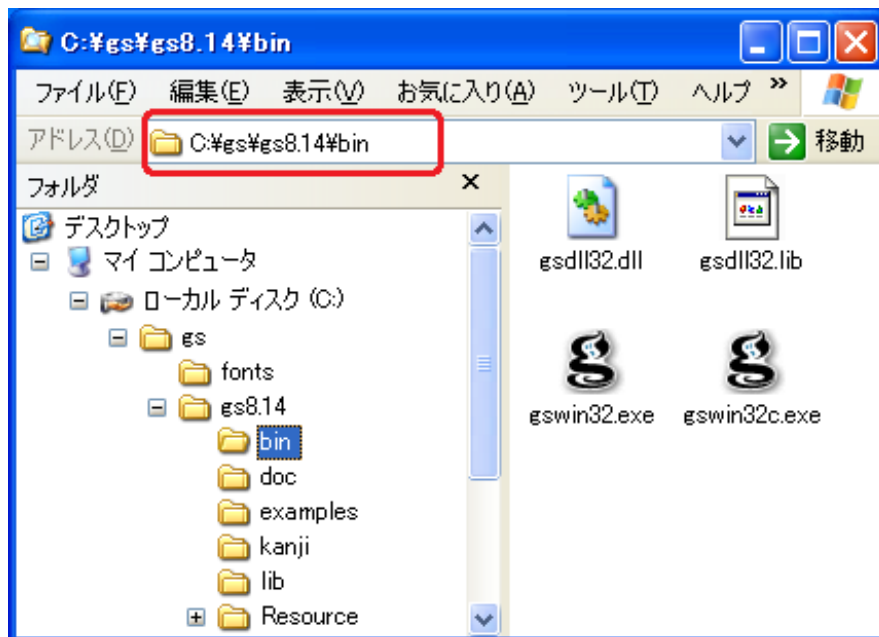
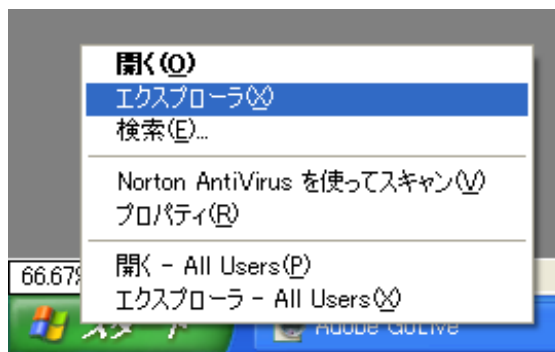


gs814w32full

は、削除してもかまいません。

インストール先のフォルダ構造を見てみましょう。

「スタート」を右クリックして「エクスプローラ」をクリックして起動します。

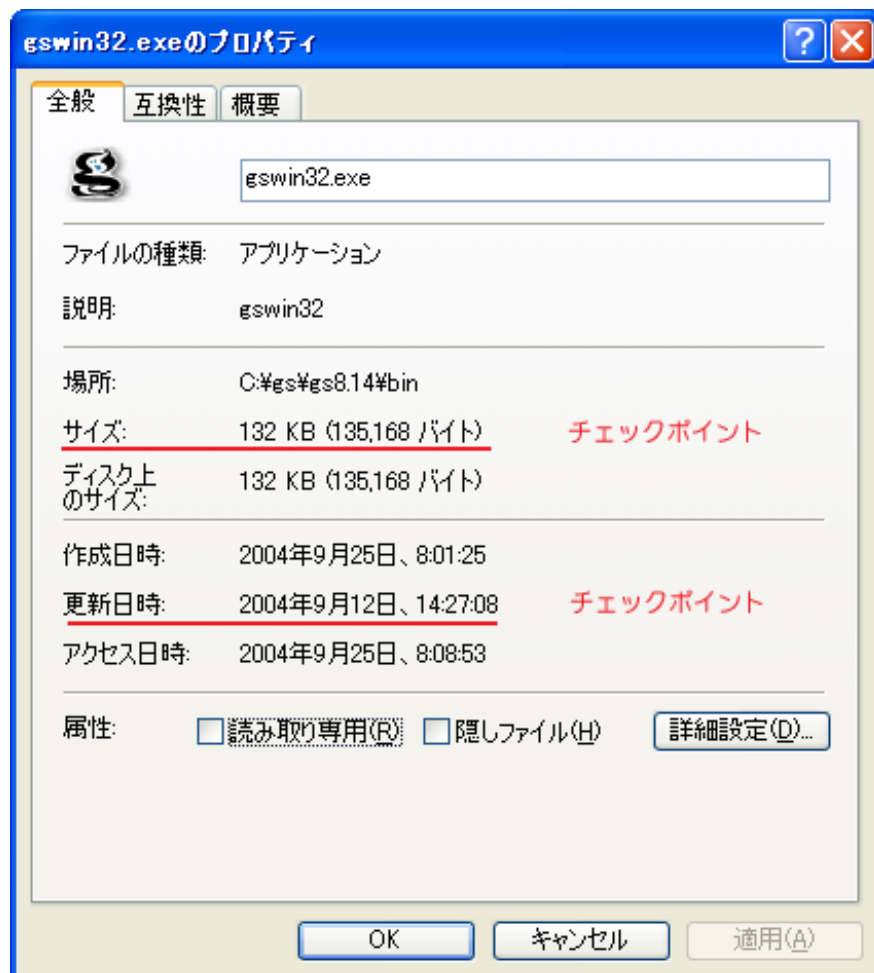


日本語版ではないIAFPL Ghostscript 8.14には、「kanji」フォルダや「examples」フォルダはありません。ここまで来て、今更ですが、上図のようなフォルダ構造でない場合、サイトのURLやバージョンなどのアクセス法が、変わったか、「gs814w32.zip」をダウンロードしてしまった可能性があります。

「gs814w32.zip」は日本語版ではないので、「gs814w32full.zip」とは違います。
 %binの中の  アイコンを、右クリックしてプロパティを見てみましょう。

gswin32.exe

これがアプリケーションです。



確認したら、プロパティウィンドウを閉じてください。

[目次に戻る](#)

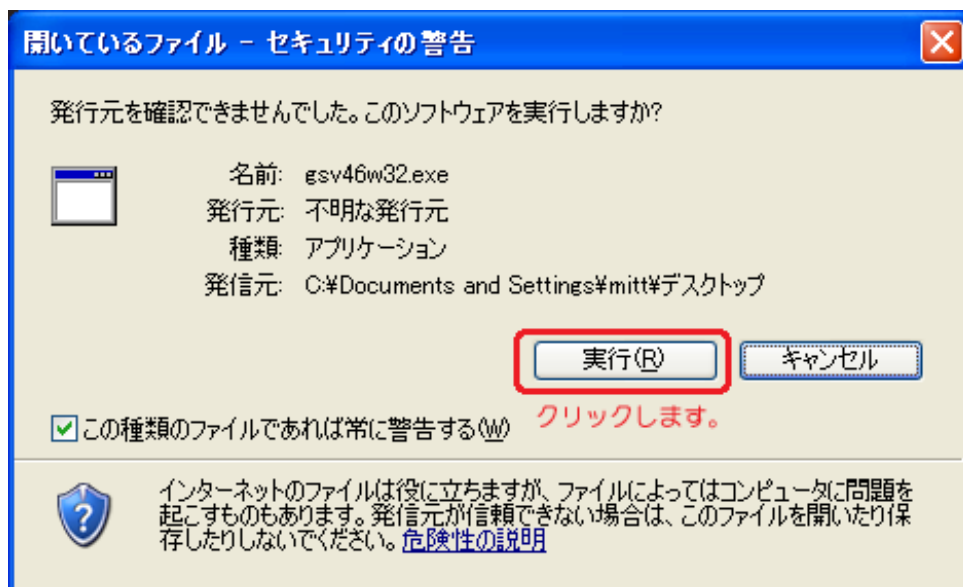
GSview 4.6のインストール

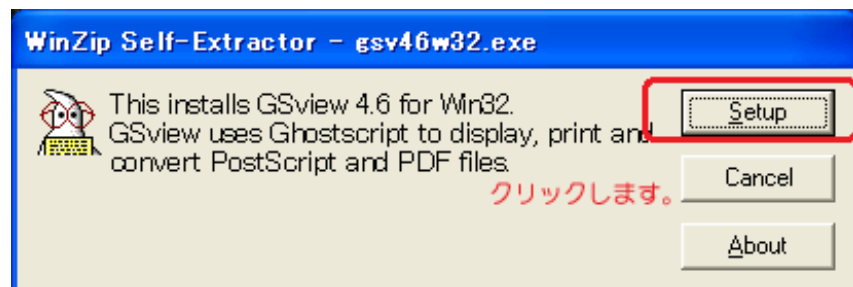
デスクトップにできた

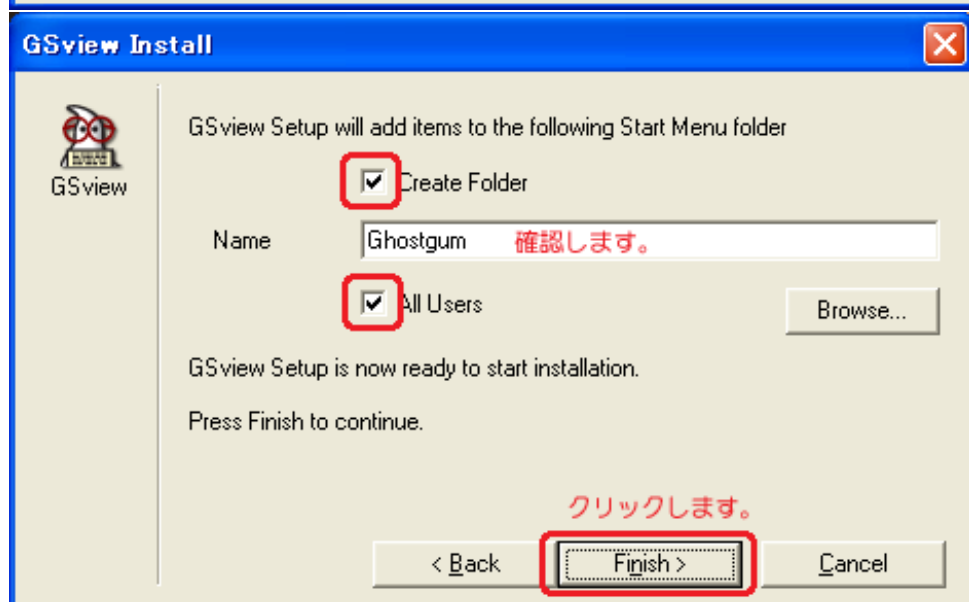
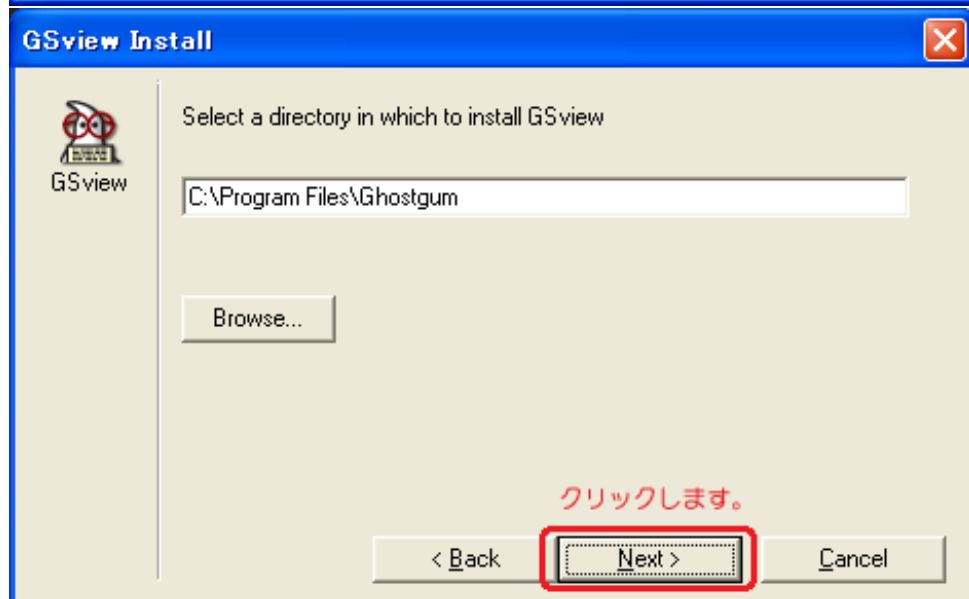
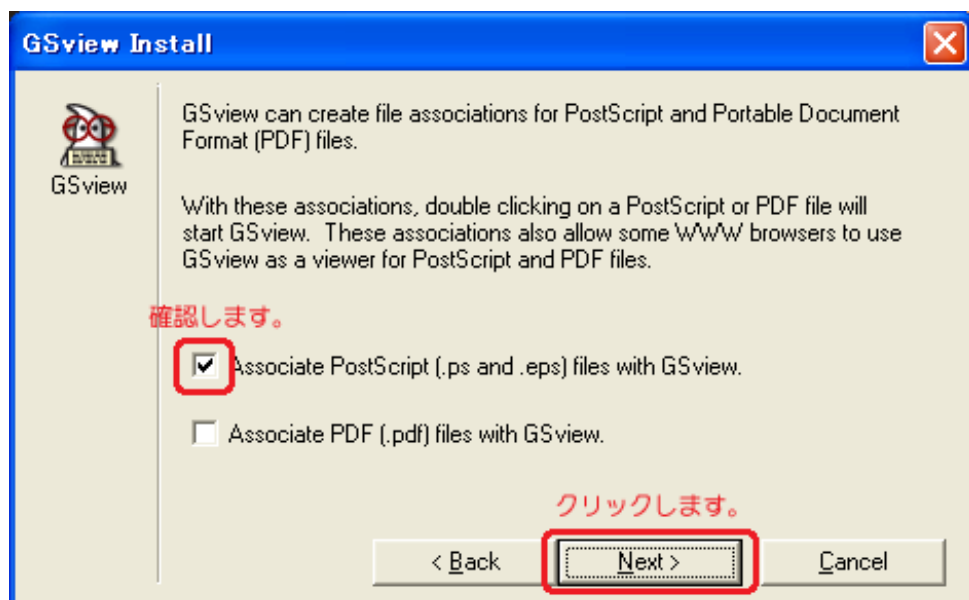


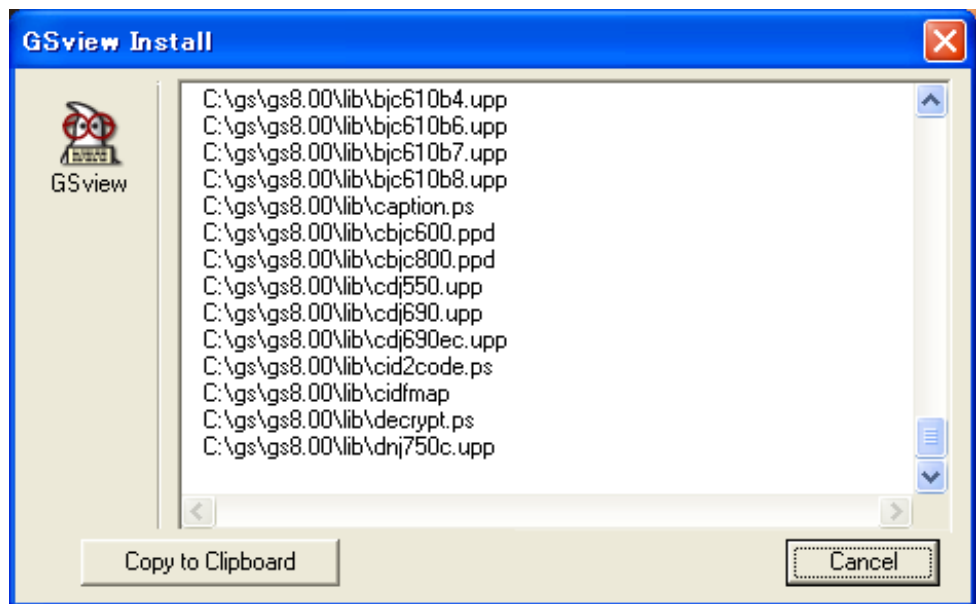
gsv46w32.exe

アイコンをダブルクリックします。これ自体が「GSview 4.6」のインストーラです。ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。










完了すると画面が消えます。ショートカットウィンドウが開くので閉じてください。

インストールが完了すると最後のダイアログボックスが開きます。「Installation successful.」

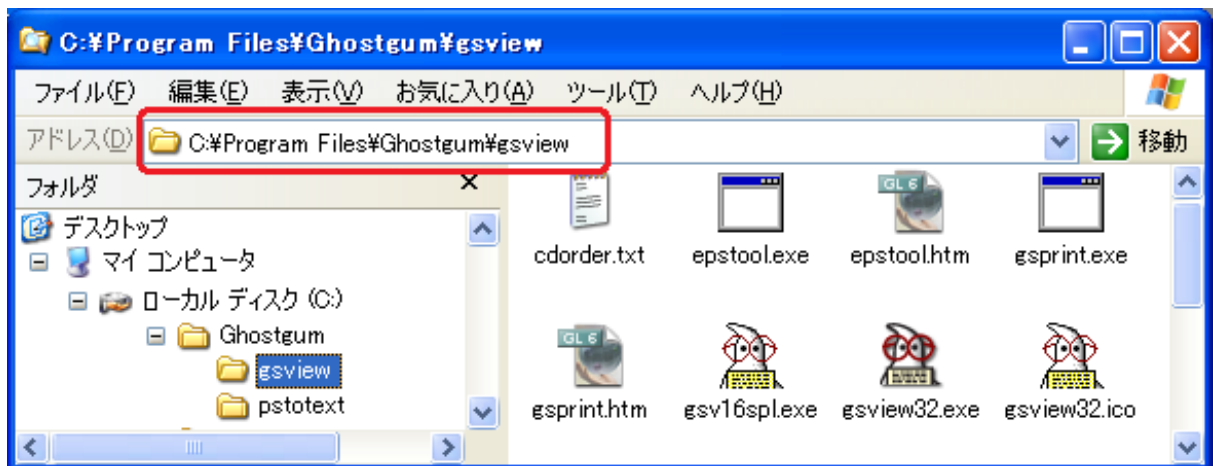
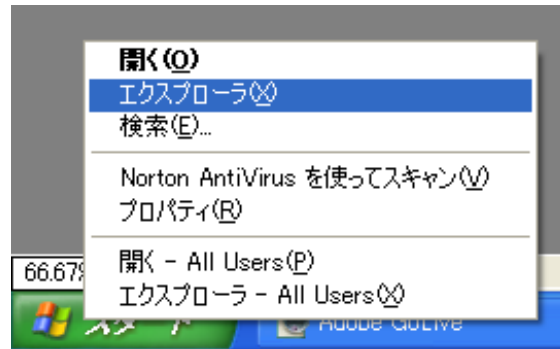
「Exit」ボタンを押すと、GSview 4.6のインストールは終了です。

デスクトップの  は、削除してもかまいません。



インストール先のフォルダ構造を見てみましょう。

「スタート」を右クリックして「エクスプローラ」をクリックして起動します。



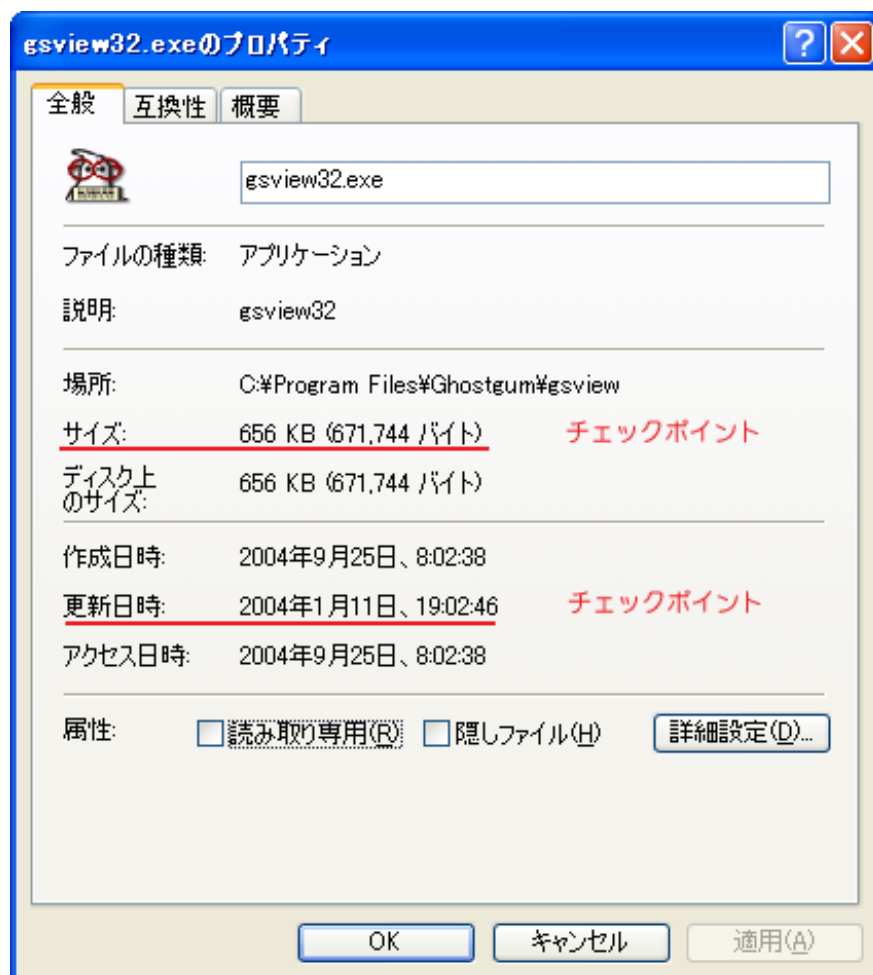
gsviewの中の



アイコンを、右クリックしてプロパティを見てみましょう。

gsview32.exe

これがアプリケーションです。



確認したら、プロパティウインドウを閉じてください。

[目次に戻る](#)

pdfwriteのダウンロードとインストール

GhostscriptをGSview 4.6で使う為の設定

Ghostscriptがコマンドラインで正しく起動する為の環境変数を設定します。

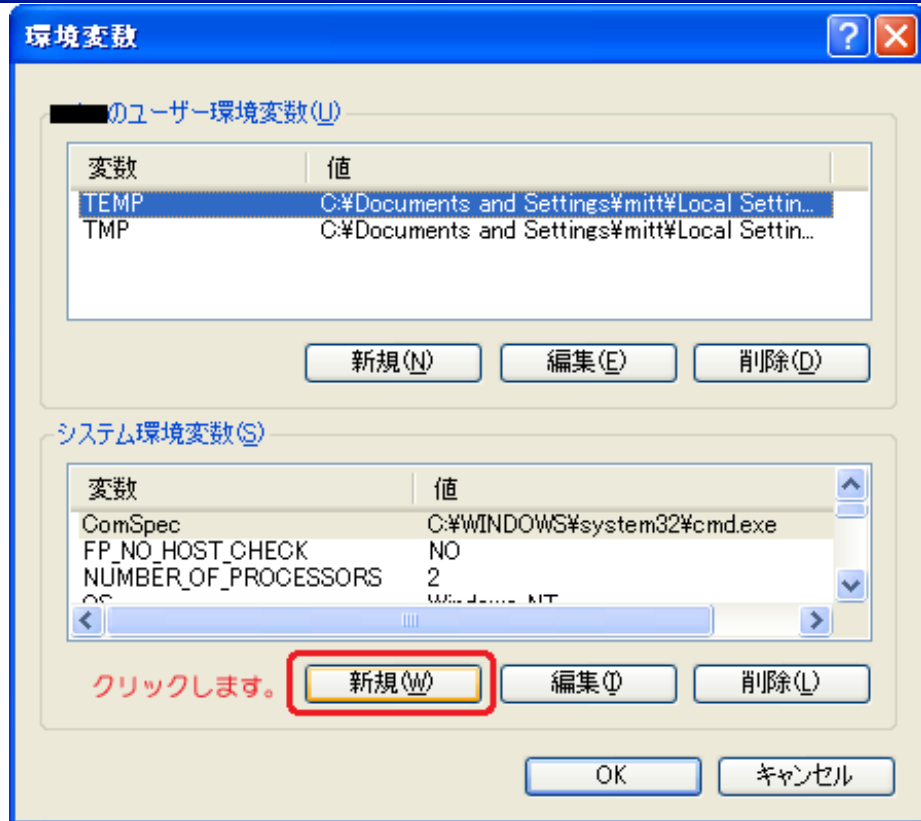
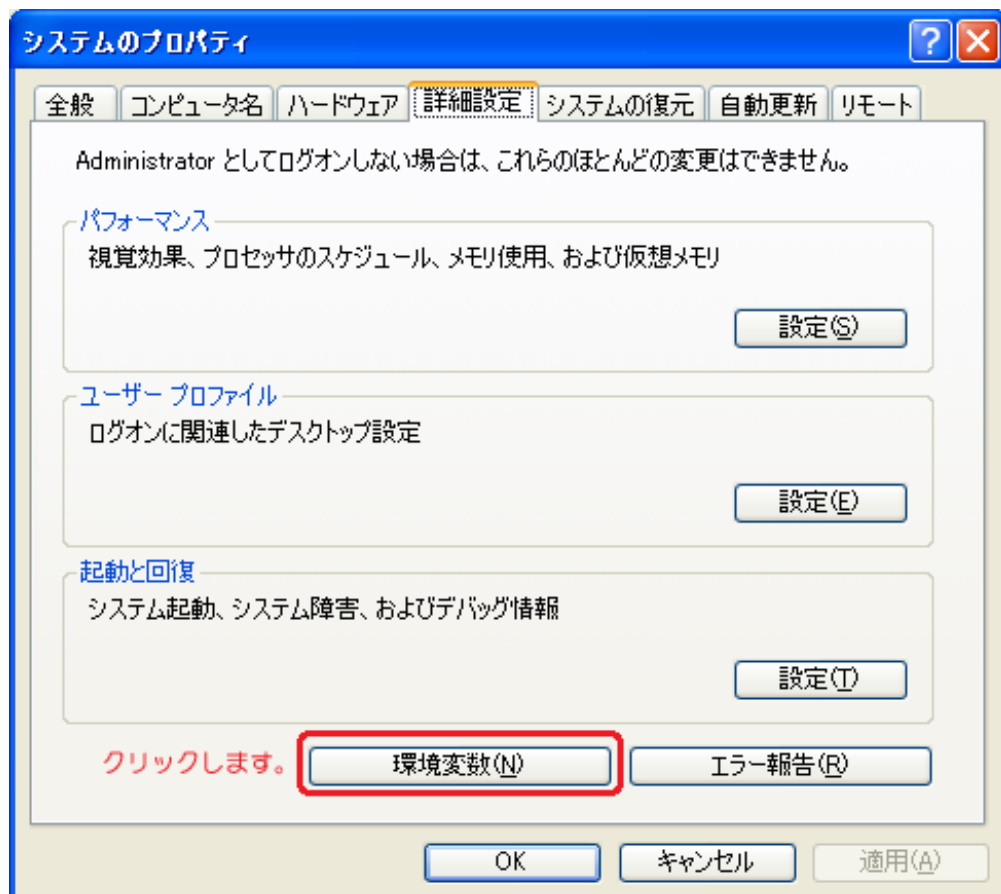
「スタート」 「コントロールパネル」をクリックします。
その中の、



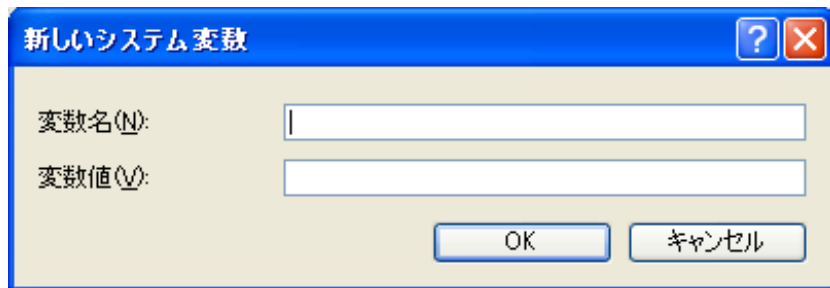
システム

ダイアログボックスが開きますので、下図を参考に進めてください。





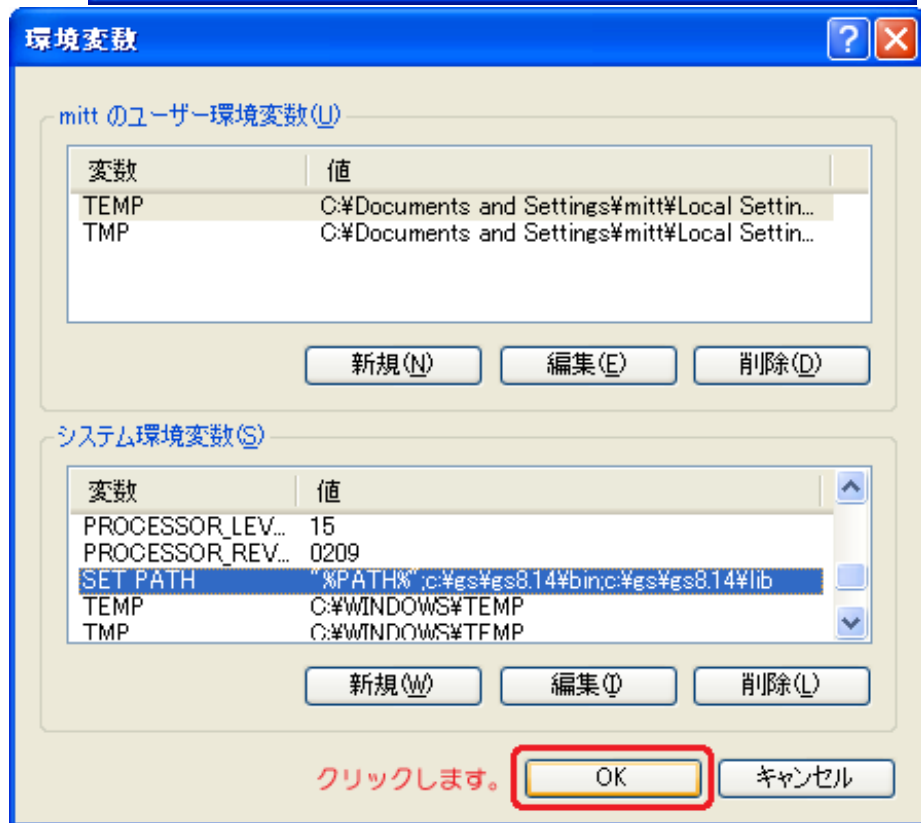
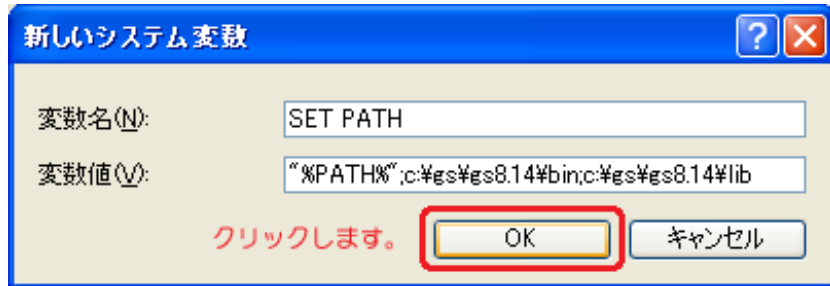
下の枠の「システム環境変数」の上下のスクロールバーを動かして、「変数」を確認してください。
すでに、SET PATHがある場合には、新規ではなく、SET PATHをクリックして「編集」をクリックしてください。
その行の最後に "%PATH%";c:\¥ ¥ ¥ ¥ ;c:\¥gs¥gs8.14¥bin;c:\¥gs¥gs8.14¥lib のように付け加えてください。
"%PATH%" が2つあるとこの行の記述は読み込まれません。

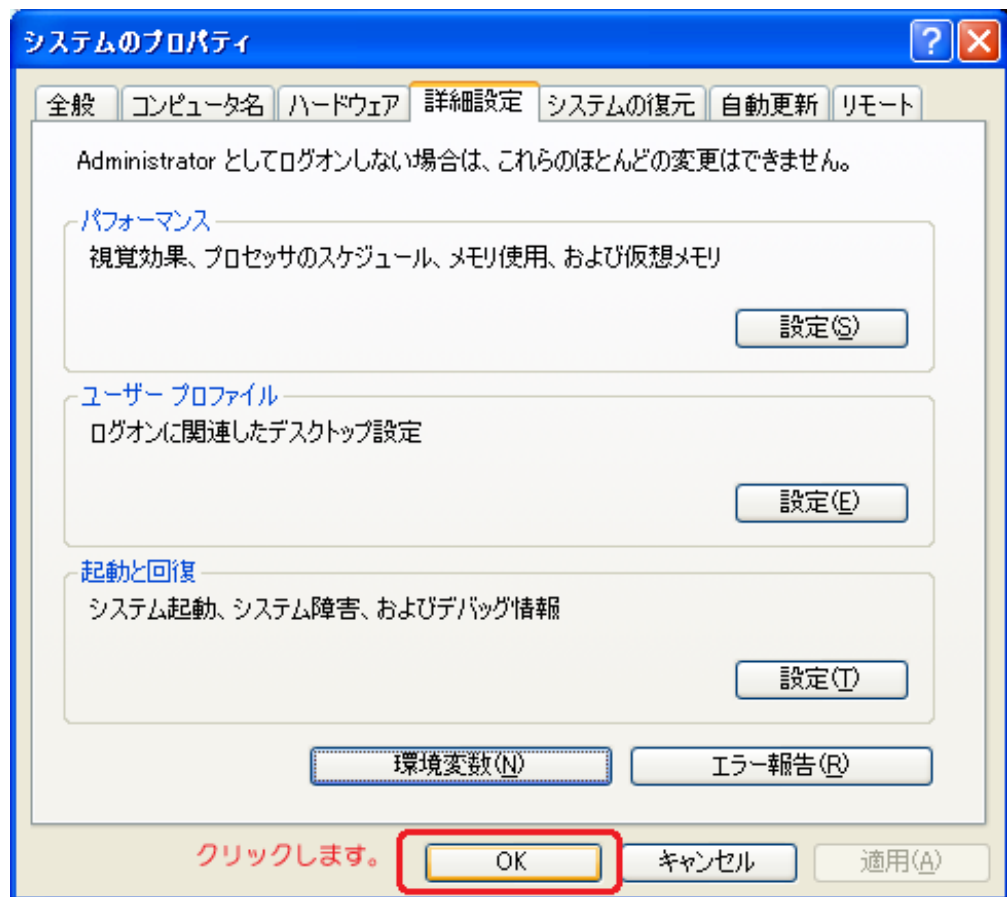


コロン「:」とセミコロン「;」を間違えないように注意してください。
途中に余分なスペースや、最後にスペースを入れないように注意してください。

変数名に、「SET PATH」

変数値に、「"%PATH%";c:%gs%gs8.14%bin;c:%gs%gs8.14%lib」と入力します。

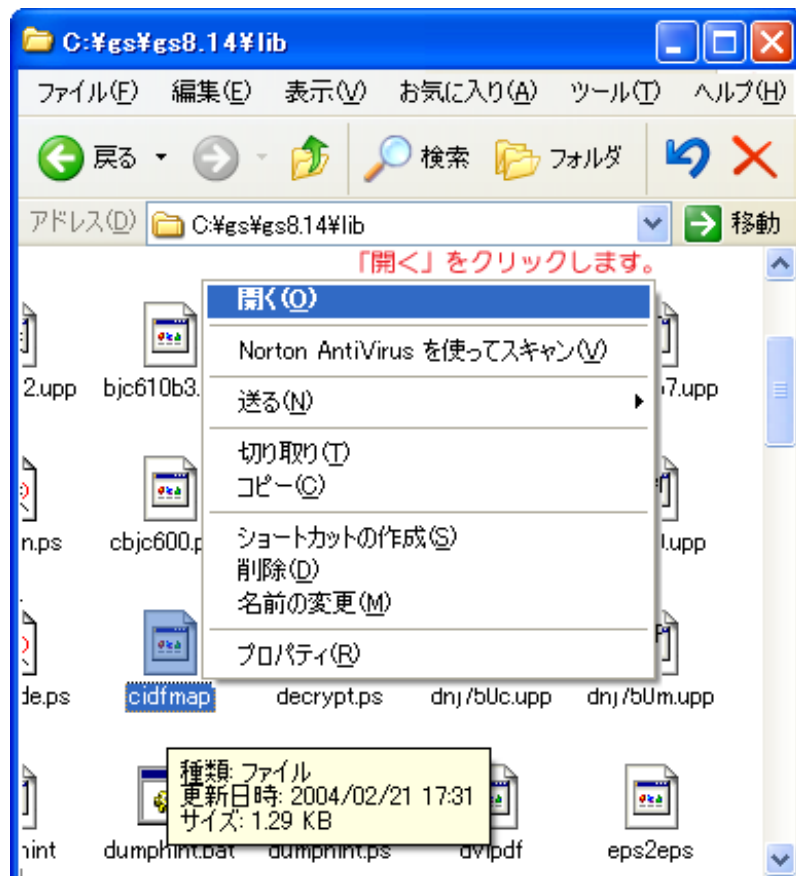




これで、Ghostscriptがコマンドラインで正しく起動する為の環境変数が設定されました。

次にGhostscriptの機能の内の「pdfwrite」を使用する為の、日本語についての設定をします。

日本語を表示できるようにするために、C:\%gs%\gs8.14\lib にある「cidfmap」ファイルを編集します。
「cidfmap」アイコンを、右クリックしてください。





「Notepad」というエディタで、「cidfmap」ファイルが開きますので、以下を参考にして編集します。

最後の方の

MS TrueType

%%

%/Ryumin-Light << /FileType /TrueType

%/Path (msmincho.ttc)

%/SubfontID 0 /CSI [(Japan1) 4] >> ;

%/GothicBBB-Medium << /FileType /TrueType

%/Path (msgothic.ttc)

%/SubfontID 0 /CSI [(Japan1) 4] >> ;

各行の先頭にあるコメントアウトの % を削除してから、次のように編集をします。

行末にはスペースを挿入しないように注意してください。

/Ryumin-Light

<<

/FileType /TrueType

/Path (c:/windows/fonts/msmincho.ttc)

/SubfontID 0

/CSI [(Japan1) 4]

>> ;

/GothicBBB-Medium

<<

/FileType /TrueType

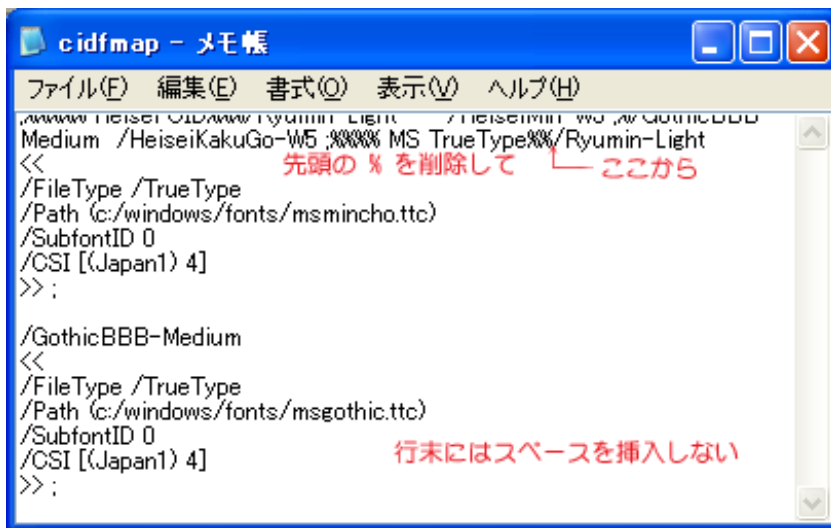
/Path (c:/windows/fonts/msgothic.ttc)

/SubfontID 0

/CSI [(Japan1) 4]

>> ;

こんな感じになります。

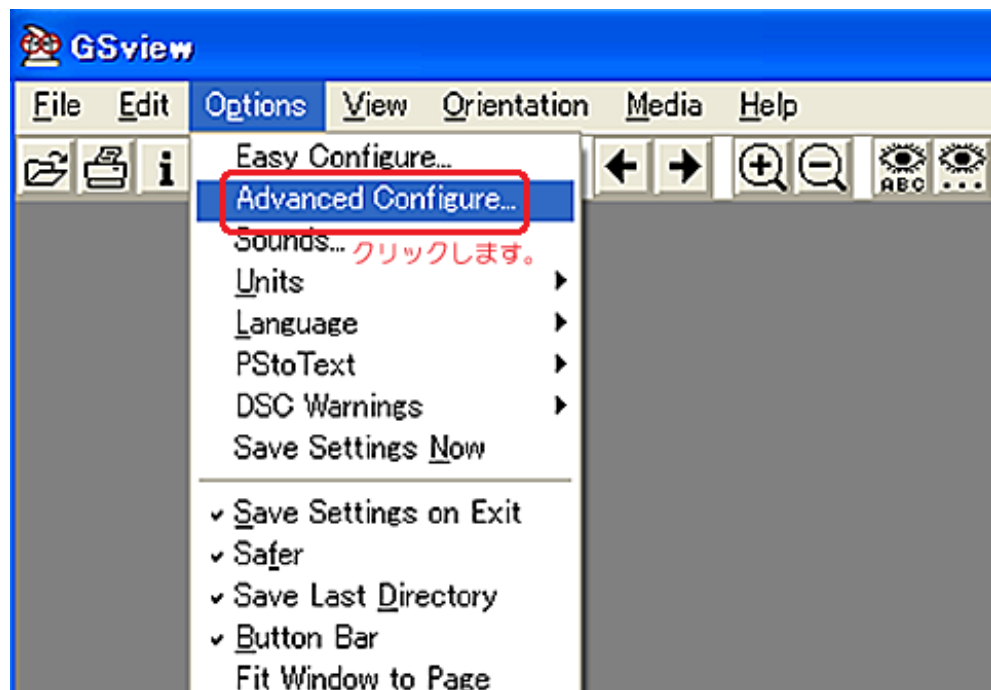


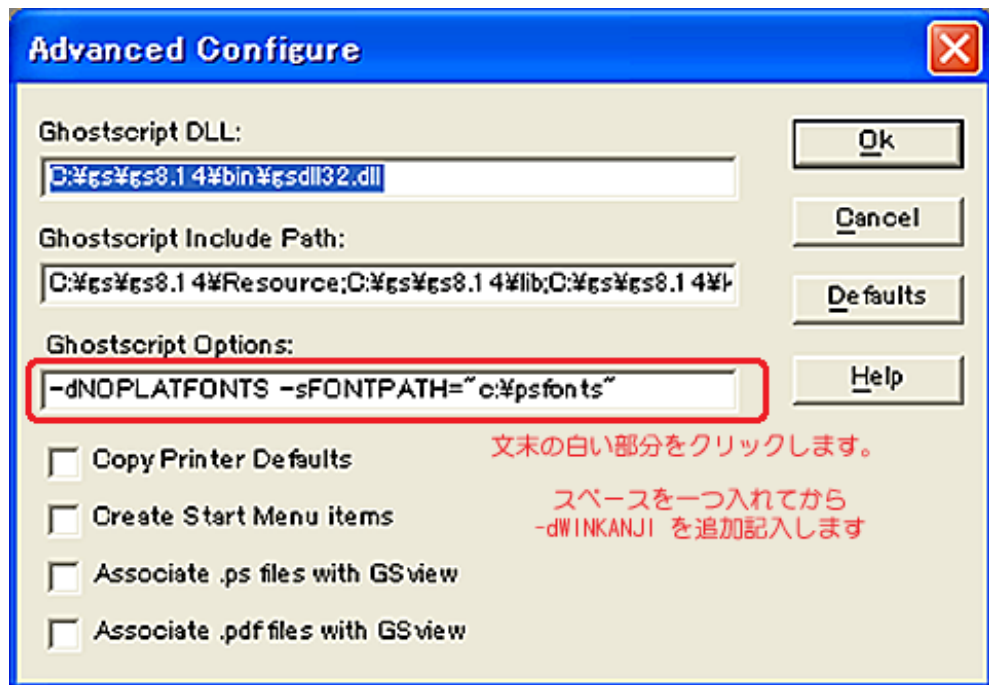
「ファイル」 「上書き保存」をクリックして、エディタを終了してください。
 これで、日本語TrueTypeフォントを利用して、PSファイルが表示され、日本語が埋め込まれるようになります。

次にGSview 4.6がGhostscriptの「Win32API」を使用して、日本語表示する為の、設定をします。

「スタート」 「すべてのプログラム」 「Ghostgum」 「GSview 4.6」をクリックして起動します。
 起動すると『GSview Registration』のウィンドウが開きます。このウィンドウの [OK] ボタンをクリックしてください。

メニュー・バーの「Options」 「Advanced Configure」をクリックします。

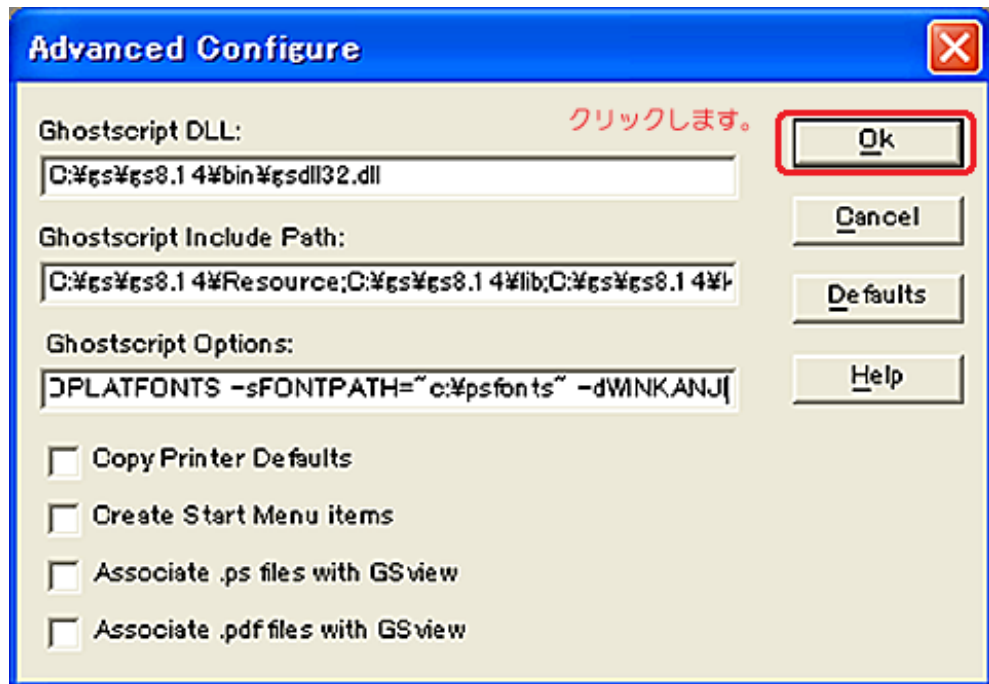




Ghostscript Options: 編集ボックスに行の末尾にスペースを一つ入れてから -dWINKANJIを追加記入します。

-dNOPLATFONTS -sFONTPATH="c:\psfonts" -dWINKANJI

となります。



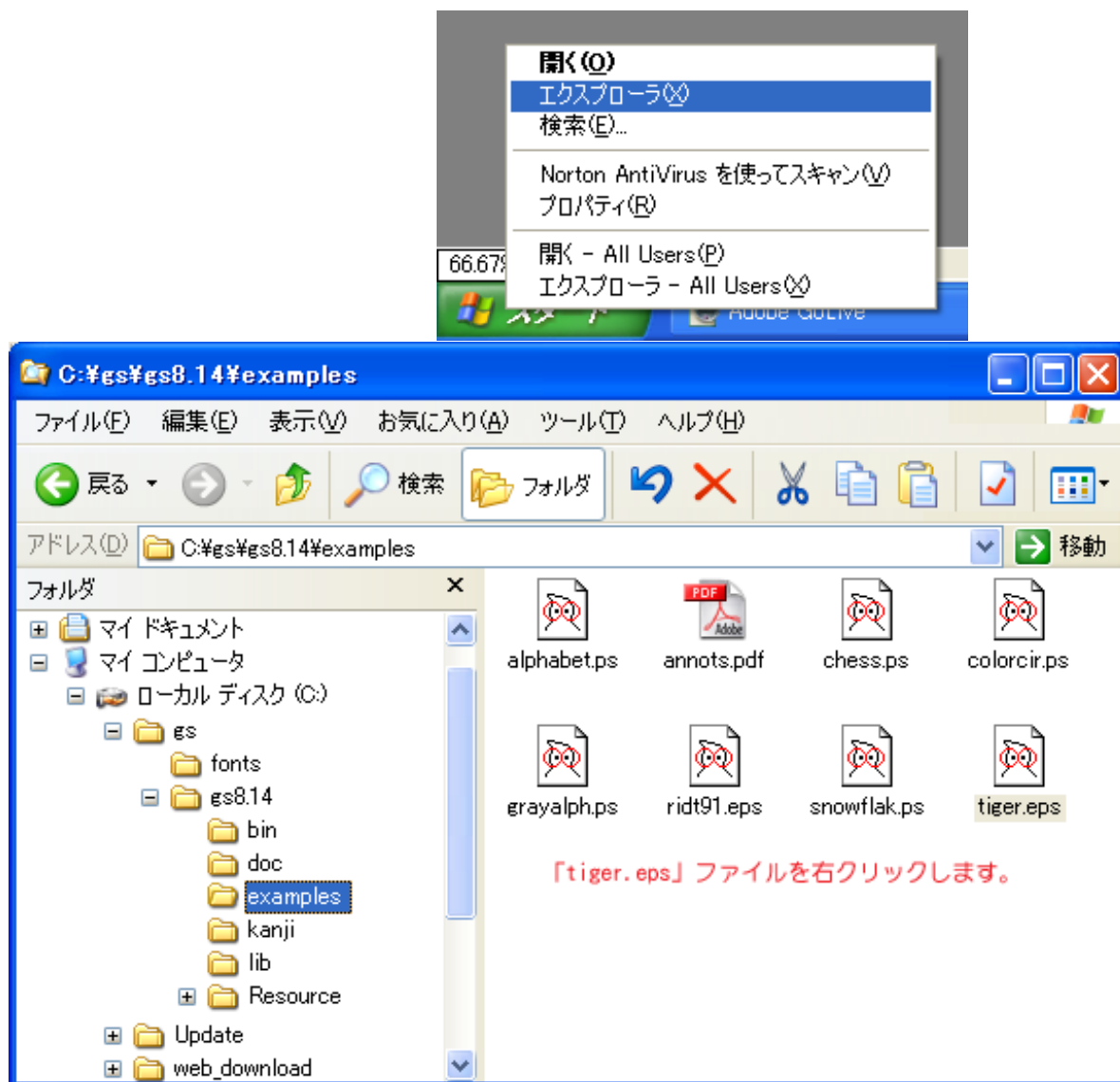
以上でGhostscriptをGSview 4.6で使う為の設定はすべて完了です。

[目次に戻る](#)

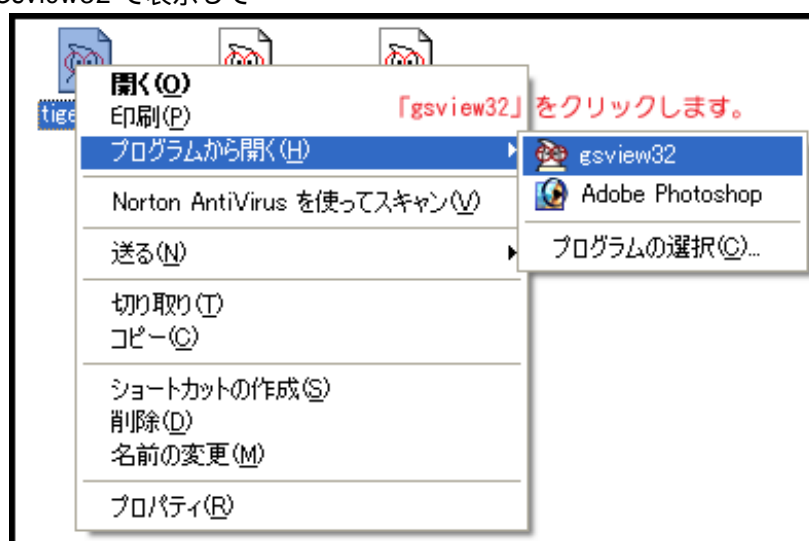
設定の確認をしましょう

画像表示の確認をします。

「スタート」を右クリックして「エクスプローラ」をクリックして起動します。



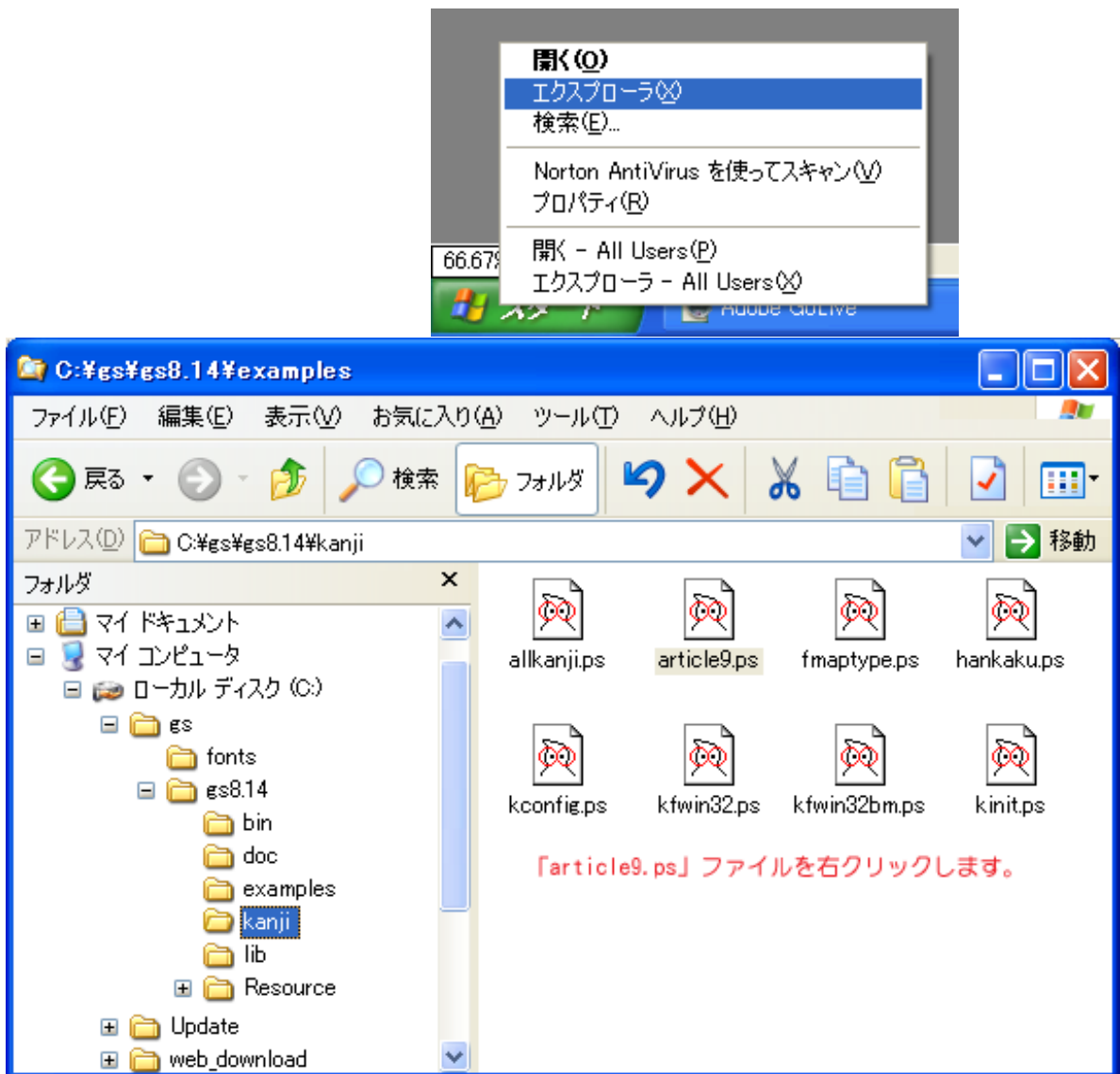
c:\gs\gs8.14\examples 内の tiger.eps をGSview32 で表示して



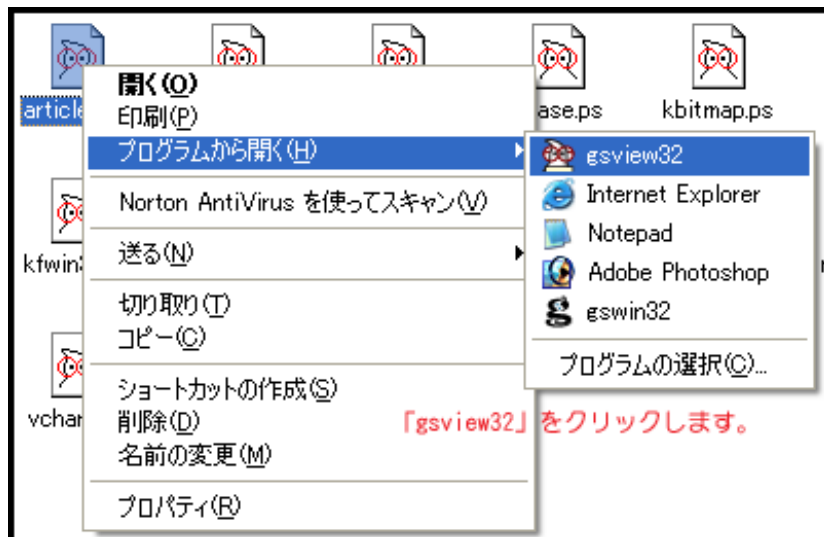
『虎の絵』が確認できれば OK です。

日本語表示の確認をします。

「スタート」を右クリックして「エクスプローラ」をクリックして起動します。



c:\gs\gs8.14\kanji 内の article9.ps をGSview32 で表示して

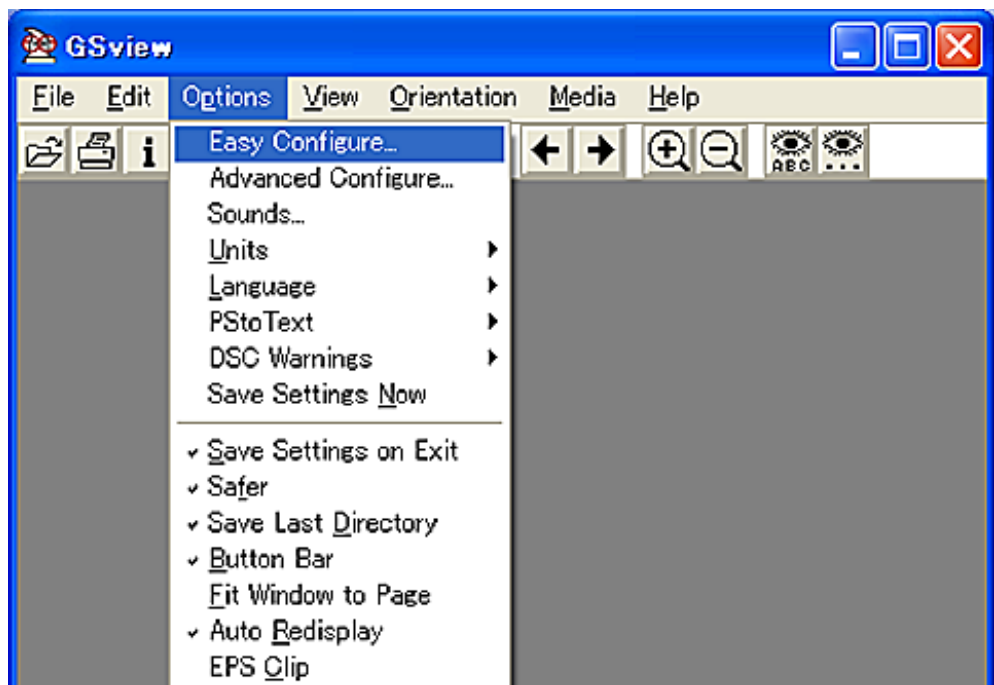


『日本国憲法第九条』が確認できれば OK です。

もし、見られない場合は、

「スタート」 「すべてのプログラム」 「Ghostgum」 「GSview 4.6」をクリックして起動します。

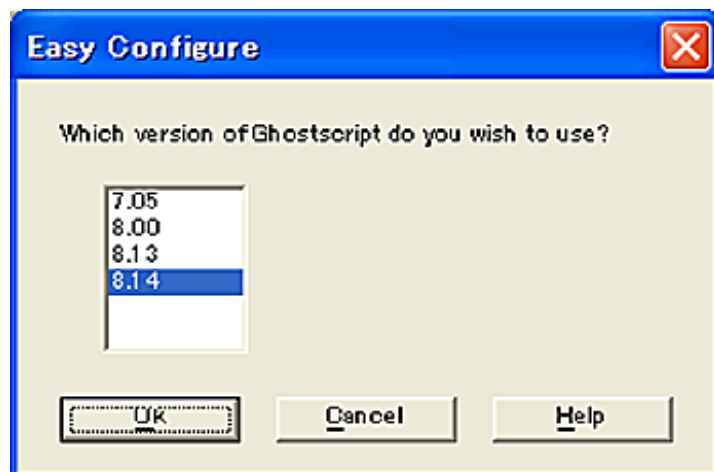
起動すると 『GSview Registration』のウィンドウが開きます。このウィンドウの [OK] ボタンをクリックしてください。



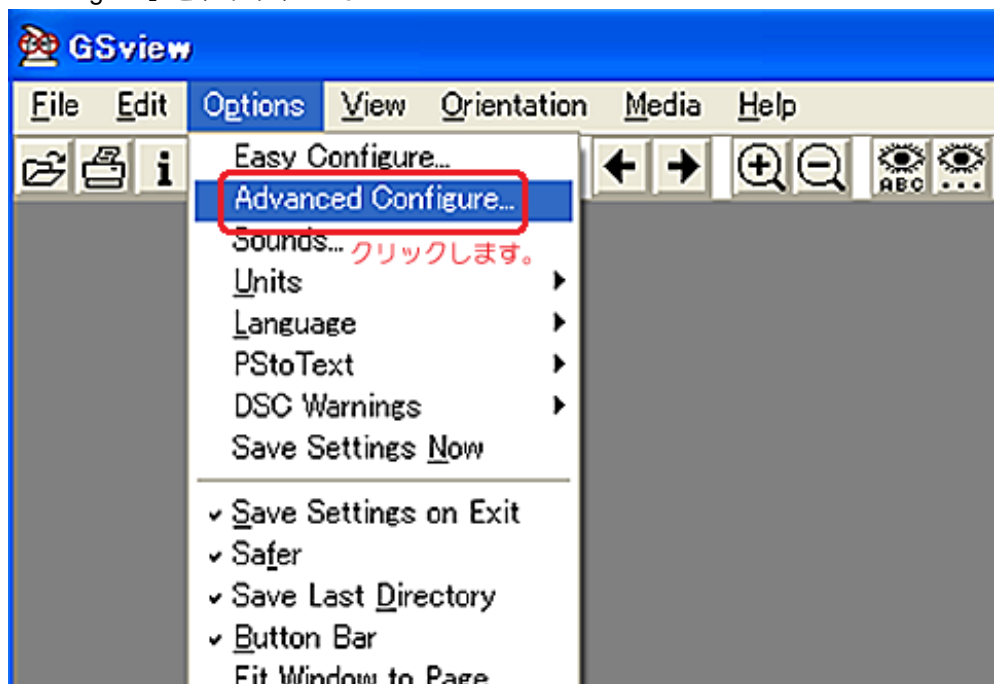
「Options」 「Easy Configure」をクリックして

Which verion of Ghostscript do you wish to use? が『 8.14 』となっているかを確認します

「OK」を必ず押してください。



次に「Options」 「Advanced Configure」をクリックして

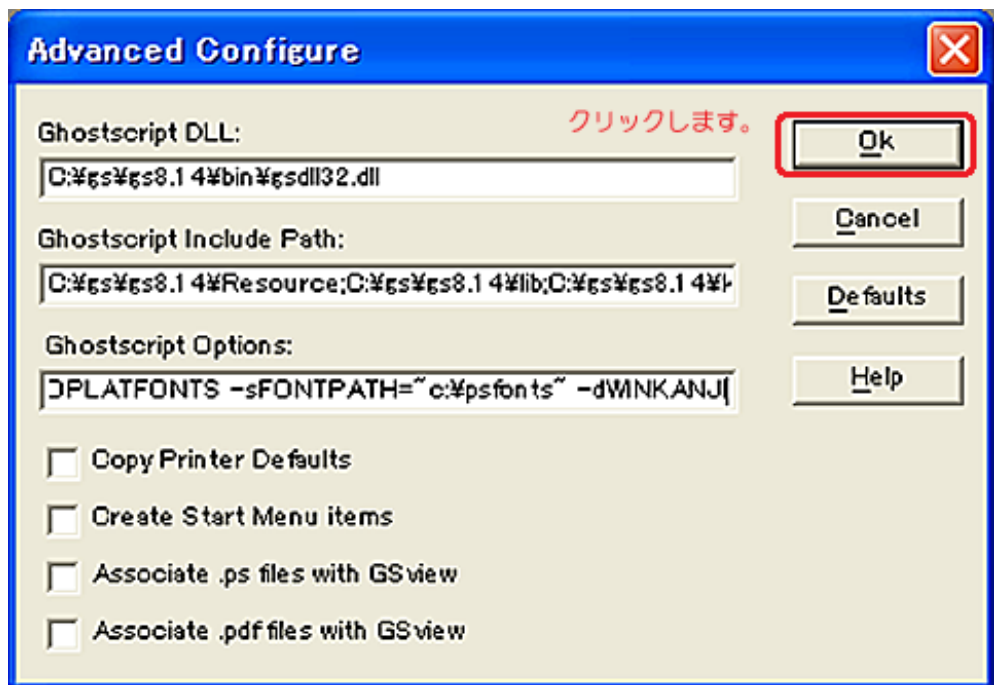


「Ghostscript DLL」

「Ghostscript Include Path」

「Ghostscript Options」

の確認をします。



Ghostscript DLL: C:\%gs%\gs8.14\bin\gsdll32.dll

Ghostscript Include Path: C:\%gs%\gs8.14\lib;C:\%gs%\gs8.14\kanji;C:\%gs%\font

Ghostscript Options: -dNOPLATFONTS -sFONTPATH="c:\%psfonts" -dWINKANJ

「OK」を必ず押してください。

[目次に戻る](#)

あとがき

アンインストールの方法

通常の Windows 用のアプリケーションの場合と同じです。

「スタート」 「コントロールパネル」 「プログラムの追加と削除」で行なってください。

「AFPL Ghostscript 8.14」

「AFPL Ghostscript fonts」

「GSview 4.6」

参考資料の紹介

このサイトでは、画像を多用して、初心者にも解りやすく、紹介しましたが、画像がちゃんと表示されなければ、何が書いてあるのか、さっぱり解りません。そんな方のために、参考資料を紹介します。

[「Ghostscript と GSview の提供および、pLaTeX2 における PostScript フォントの利用」](#)

私はこのページの一部を参考に、ページを作成しました。('04.9.25最終アクセス)

[実際にPDFを作成して見ましょう](#)

まえがき

アンインストールの方法

「AFPL Ghostscript 8.14」 「AFPL Ghostscript fonts」 「GSview 4.6」

通常の Windows 用のアプリケーションの場合と同じです。

「スタート」 「コントロールパネル」 「プログラムの追加と削除」で行なってください。

「Generic PostScript Printer」 「Acrobat Distiller J」

「スタート」 「プリンタとFAX」フォルダでアイコンをクリックして、削除してください。

参考資料の紹介

このサイトでは、画像を多用して、初心者にも解りやすく、紹介しましたが、画像がちゃんと表示されなければ、何が書いてあるのか、さっぱり解りません。

そんな方のために、参考資料を紹介します。98やMeの方も大丈夫です。

[「Ghostscript と GSview の提供および、pLaTeX2 における PostScript フォントの利用」](#)

私はこのページの一部を参考に、ページを作成しました。(04.9.25最終アクセス)

[ダウンロードとインストールと設定のページに戻る](#)

さあ PDFを作ろう!

目次

- 1.素材を用意する。
- 2.PSプリンタを選ぶ。
- 3.ファイル(.PS)を出力する。
- 4.ファイル(.PS)を開きます。
- 5.GSview4.6が起動します。
- 6.デバイスに「pdfwrite」を選びます。
- 7.プロパティを設定します。
- 8.「OK」ボタンで確定します。次回から、6.7.8.の作業は省けます。
- 9.ファイル(.PDF)を出力する。

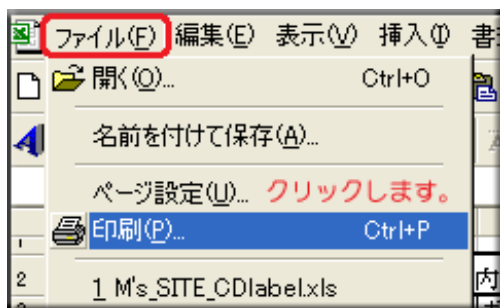
[うまくいかない場合は・・・](#)

1.素材を用意する。

.jpgでも.bmpでも.docとか.xlsとか、はたまた.psdでもいいですから、素材を用意します。

素材のサイズはきちんと把握しておいて下さい。

メニューバーの「ファイル」から「印刷」をクリックします。



[目次へ戻る](#)

2.PSプリンタを選ぶ。

「名前」がAcrobat Distiller Jになっているか確認します。

なっていない場合は、 をクリックして選びます。

ファイルへ出力にチェックを入れます。



「プロパティ」をクリックして、サイズや品質を設定します。 [詳細はこちら](#)

印刷範囲や印刷対象も選べます。条件に応じて、ラジオボタンを選びます。

「OK」ボタンをクリックします。

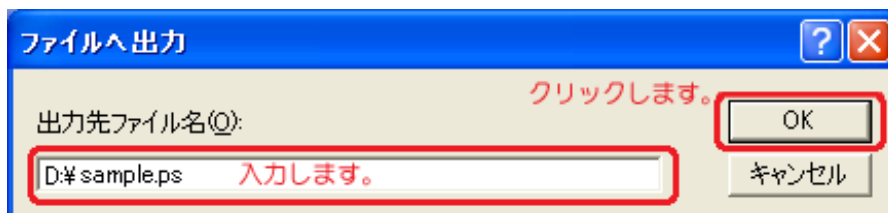
[目次へ戻る](#)

3.ファイル(.PS)を出力する。

「出力先ファイル名」編集フォームに名前を入力します。

この場合は、Dドライブに「sample」という名で保存されます。

拡張子(.ps)をつけて下さい。(日本語は避けてください。)

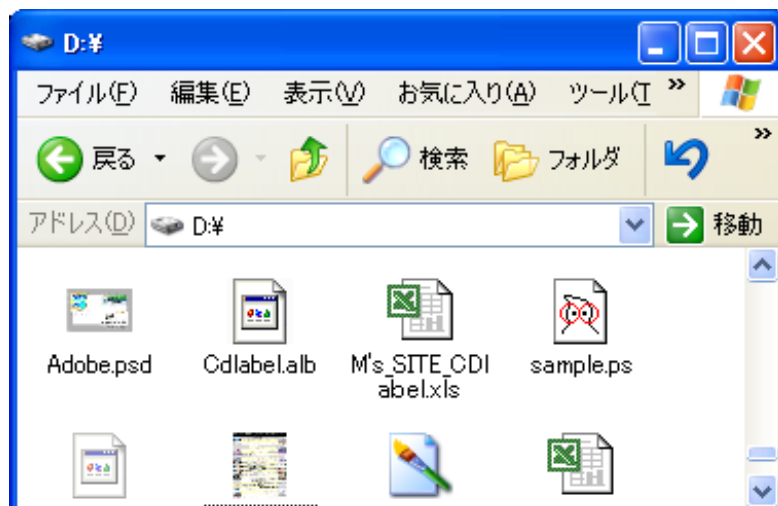


「OK」ボタンをクリックします。

[目次へ戻る](#)

4.ファイル(.PS)を開きます。

この場合は、Dドライブに保存したので、Dドライブを開きます。



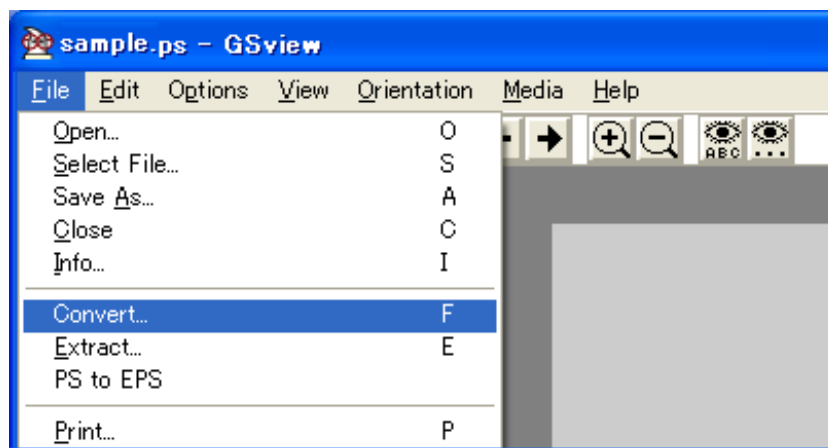
保存されたPSファイル(お化けのアイコン)をダブルクリックします。



[目次へ戻る](#)

5.GSview4.6が起動します。

「GSview Registration」のウィンドウが開くので、[OK] ボタンをクリックしてください。



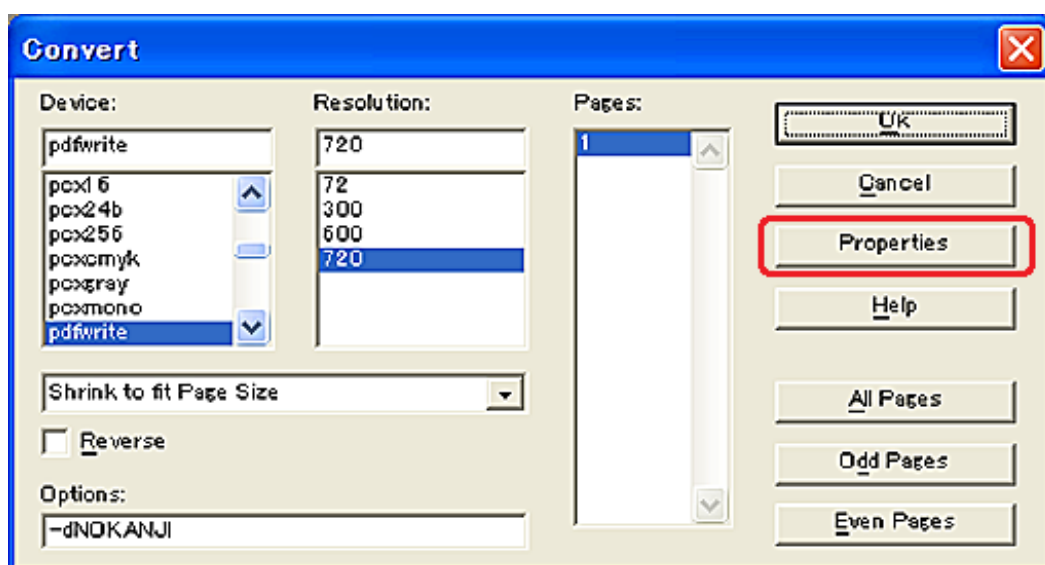
メニューバーの「File」から、「Convert...」をクリックします。

[目次へ戻る](#)

6.デバイスに「pdfwrite」を選びます。

「Resolution」フォームは、お好きな品質を選んでください。

「Option」フォームに -dNOKANJI と入っているか、チェックします。



「Properties」(プロパティ) ボタンをクリックします。

[目次へ戻る](#)

7.プロパティを設定します。

「Property」フォームはPDFのバージョンを選択します。

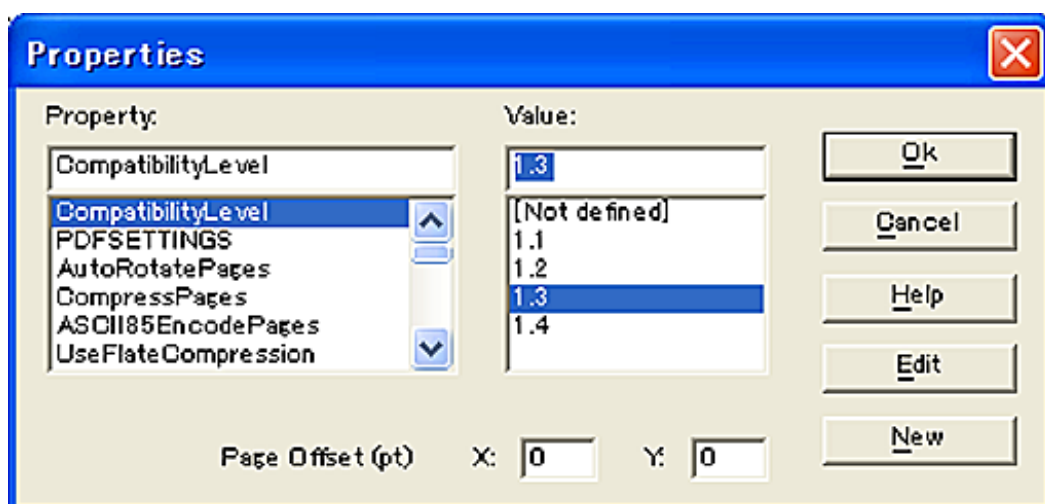
スクロールバーを動かして、「CompatibilityLevel」を選びます。

フォントの埋め込み機能をサポートする大事な設定です。

「Value」から「1.3」を選びます。

Acrobatの最新バージョンは6.0なので、現在では「古くても4.x」というところが多いようです。

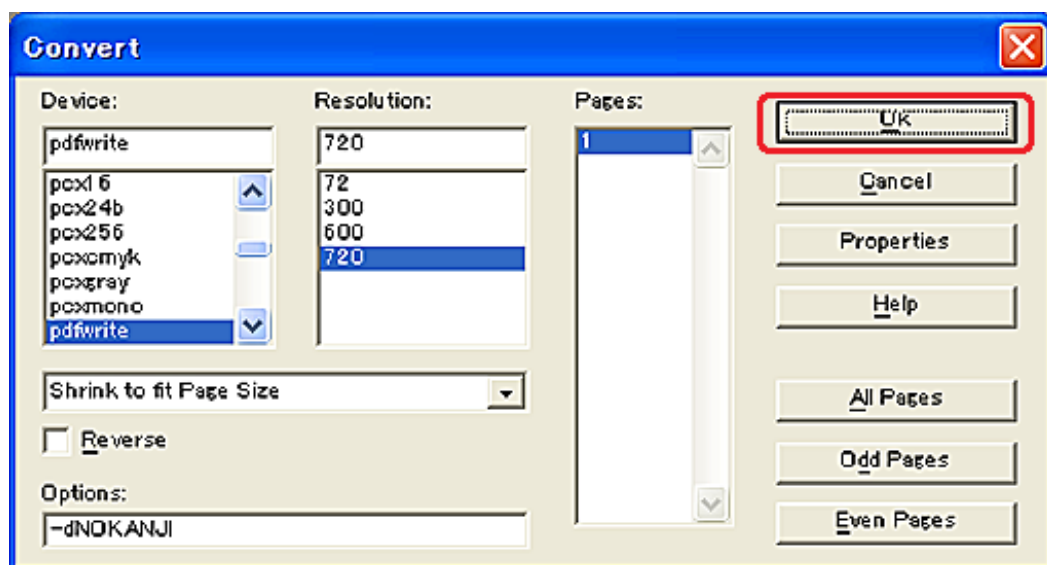
ですので、1.3を選びます。



「OK」ボタンをクリックします。

[目次へ戻る](#)

8. 「 OK 」 ボタンで確定します。

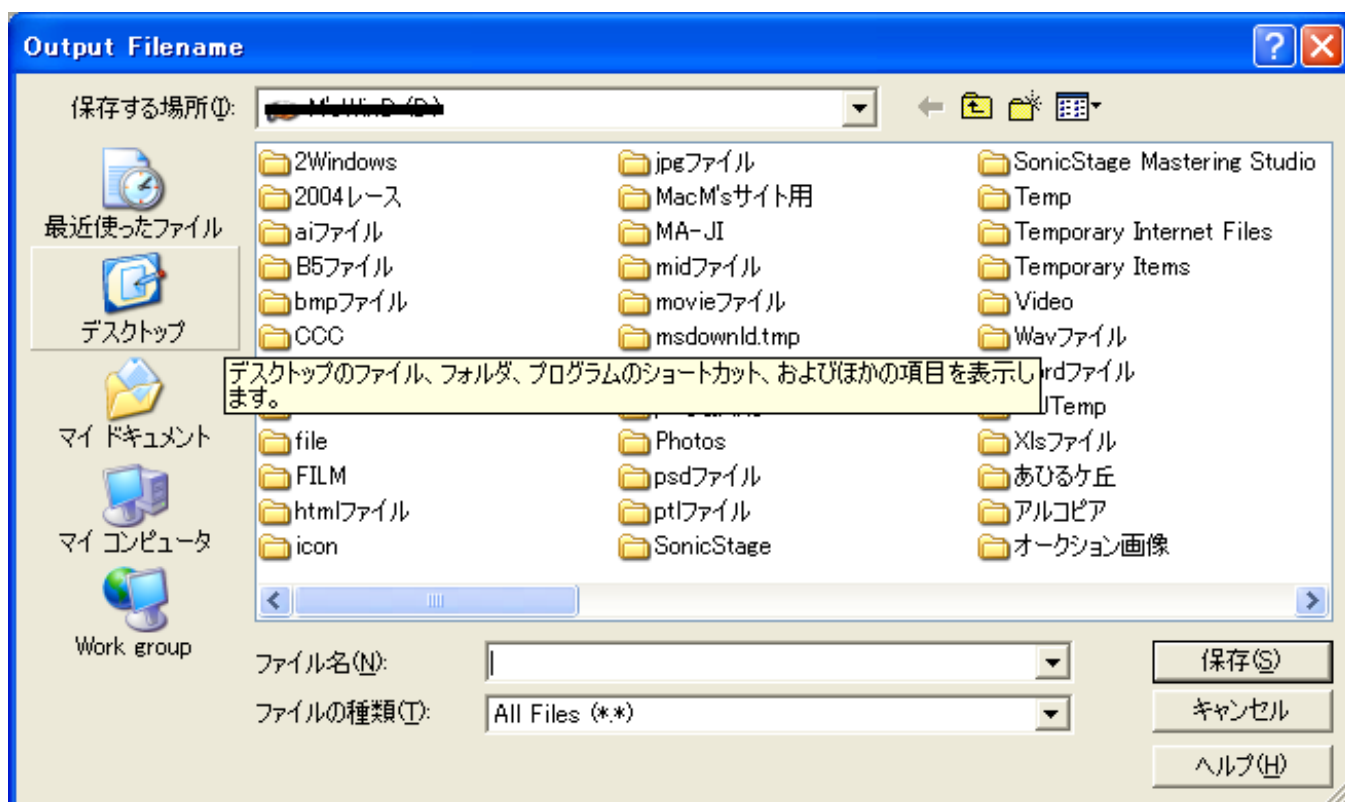


次回から、記憶されるので6.7.の作業は省けます。「 OK 」 ボタンをクリックします。

[目次へ戻る](#)

9. ファイル(.PDF)を出力する。

Output Filename (名前をつけて保存) ダイアログボックスが開きます。



「保存する場所」を選び、「ファイル名」フォームに名前を入力します。

拡張子(.pdf)をつけて下さい。(日本語は避けてください。)

[目次へ戻る](#)

もし、うまくいかない場合は、

「2.PSプリンタを選ぶ。」の「プロパティ」の詳細設定をする。
例えば、素材サイズがB5サイズなら、用紙もB5サイズにしましょう。
品質も選びましょう。
Scenモード(見るだけ)なら、72dpiで充分です。
Printモード(印刷用)なら、300dpi以上で出力します。
画像とかを出力するのなら高い方が美しいです。
しかし、もとの素材よりも、容量が重くなるのなら、PDFにする必要がありませんよね?
品質は、ほどほどに。ちなみに、私は、300dpiで作成しています。
重くても、600dpiまでで、それ以上は、あまり効果がないと、認識しています。

[もっと詳しくはこちら-「よいPDFを作ろう」-](#)

まだ、うまくいかない場合は、

- 1、PSプリンタの設定を見直す。
- 2、PDFwriteの設定を見直す。

それでも、うまくいかない場合は、

すべてを、アンインストールして、最初からやり直す。[アンインストールの方法](#)

[目次へ戻る](#)

[ダウンロードとインストールと設定のページに戻る](#)

まえがき

うまくいかない理由として

センタリングがずれる。レイアウトが変わる。文字が途中でできる。改行している。文字や絵が重なる。等表示できているのに、良いPDFができない場合は、大抵、素材づくりに問題があります。

実際に

「Generic PostScript Printer」
「Acrobat Distiller J」
「AFPL Ghostscript 8.14」
「GSview 4.6」

が、正しくインストール、設定できた、とします。

PSプリンタドライバやPDFwrite側でどんなに細かく設定しても

やはり素材を把握していないと意味がありません。

素材を把握していれば、その時々に応じて、PSプリンタドライバやPDFwriteの設定を自在に使い分ける事ができます。

素材を把握とは、視覚的に見たものではなく、情報的なものです。

例えば、サイズ、品質、レイアウトですね。

サイズの単位は、ピクセル×ピクセルで表しますが、おおまかにA4とかB5とかでもいいです。

品質の単位は、おもに「dpi」です。WEBでは普通 72dpi です。印刷では 300dpi あれば美しいです。

レイアウトは、サイズを把握していれば問題ないですね？

画像ソフトは、問題ないと思いますが、エクセルやワードは、余白やヘッダー&フッターもあるので、必ず、プレビューで何度も確認しましょう。

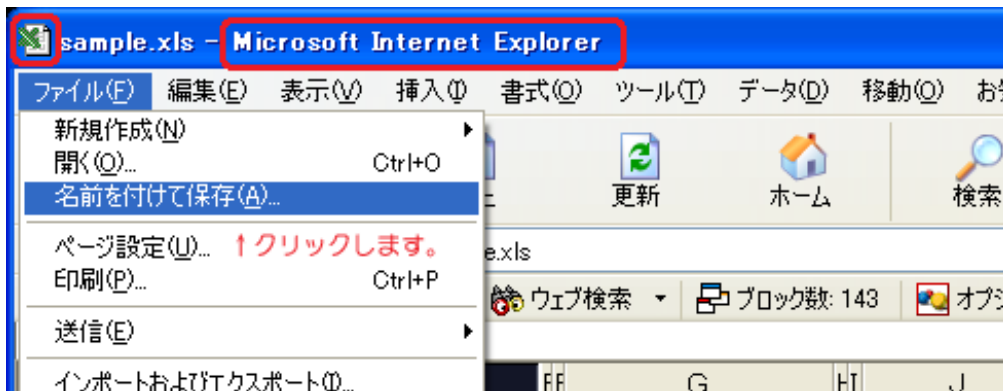
素材を把握しよう。サンプル素材を用意しました。

アイコンをクリックして開いてみてください。(エクセルをお持ちの方しか見られません。)



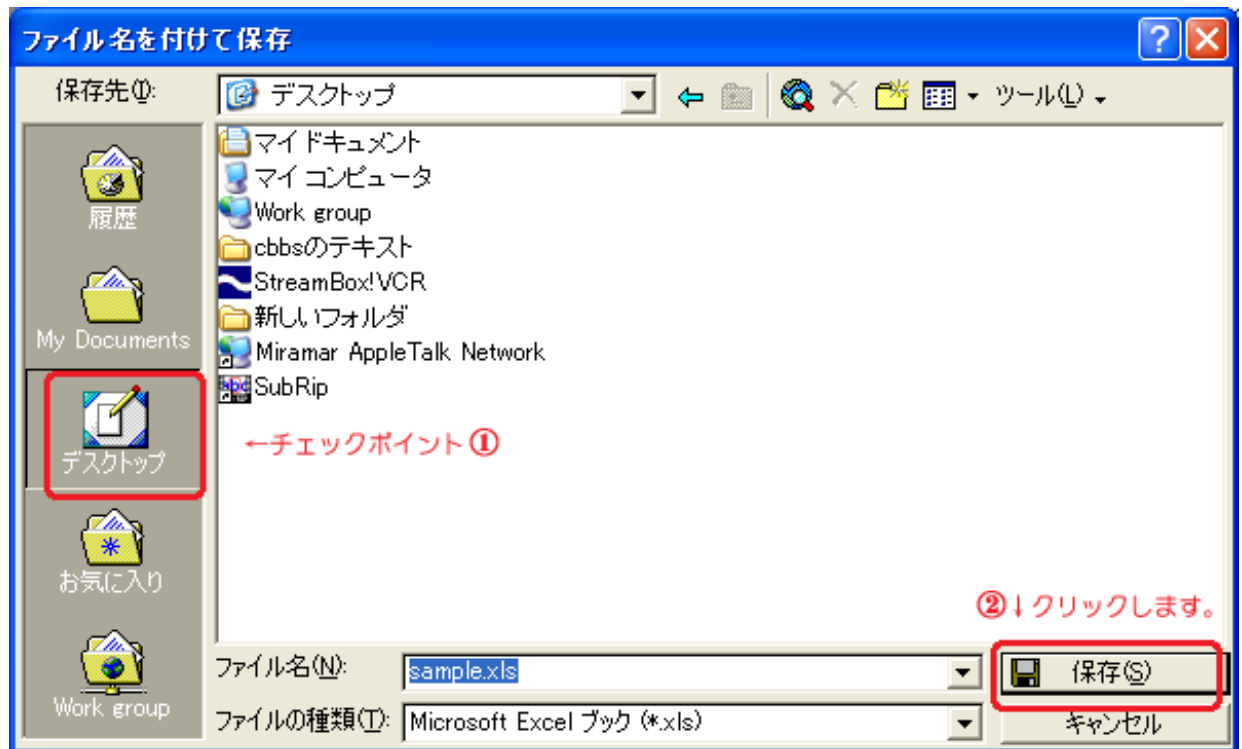
sample.xls

Internet Explorer 6.0をお使いなら、Internet Explorerの中にエクセルが起動します。




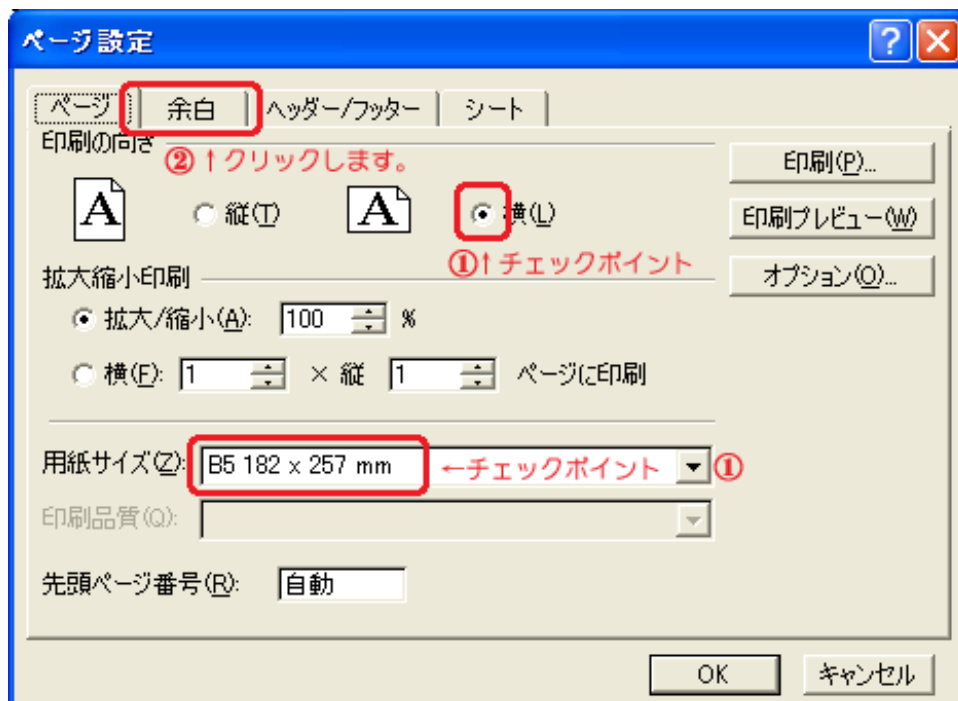
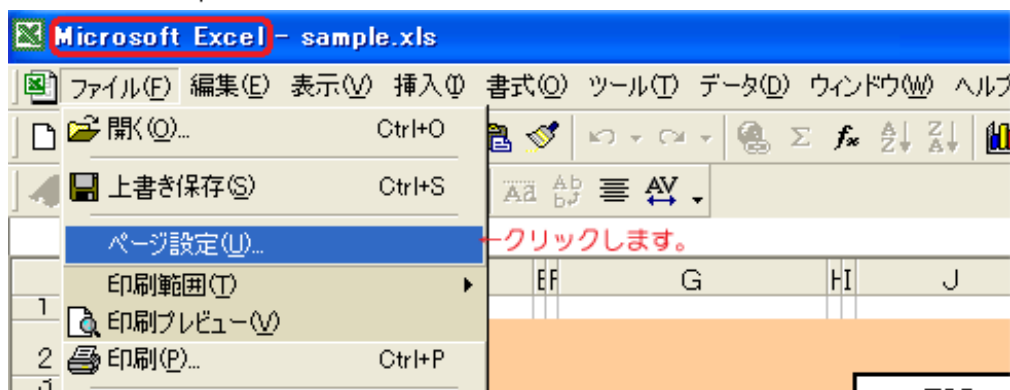
このままでは、素材確認ができないので、コンピュータに保存します。

「ファイル」から「名前を付けて保存」をクリックしてください。

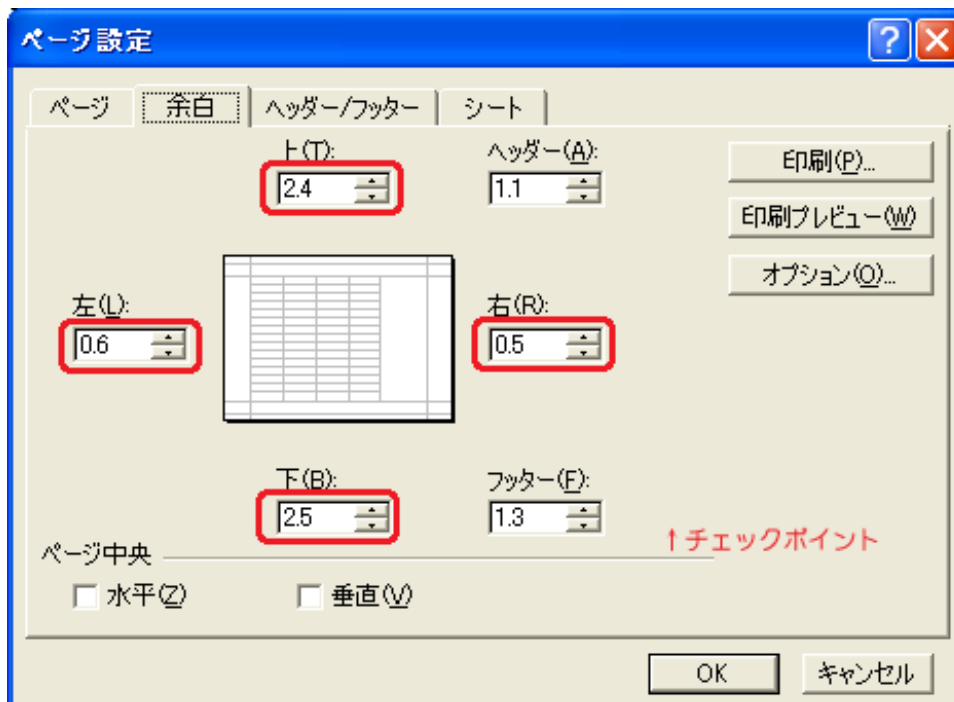


デスクトップに保存します。

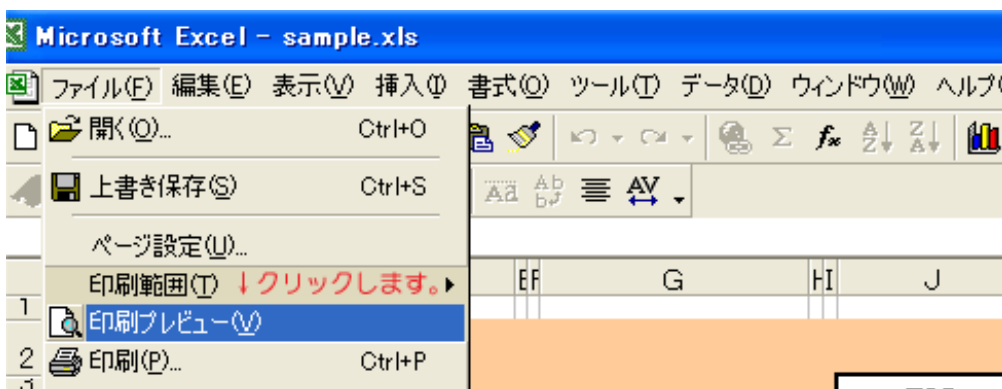
デスクトップ上の  をダブルクリックします。エクセルが起動します。



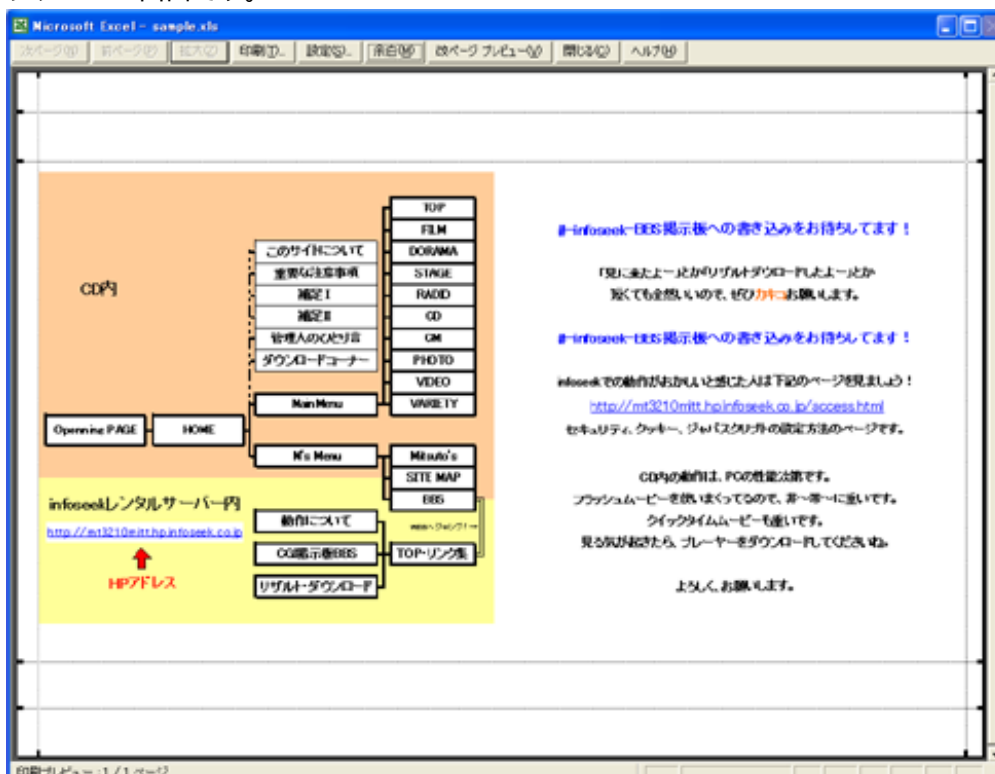
余白 をクリックしてください。








✖ をクリックして閉じてください。
次に、プレビューを見ます。



プレビュー画面です。



余白 をクリックして、**点線を表示**させてください。
 マウスポインタは通常  ですが、 になったり、 になったりするのはご存知でしょう。
 この場合は、カーソルを点線に近づけると、 や  に変化します。
 変化したところで、マウスでドラッグすると、点線の位置が変わります。
 こうやって、用紙のレイアウトを調整します。
閉じる をクリックしてください。

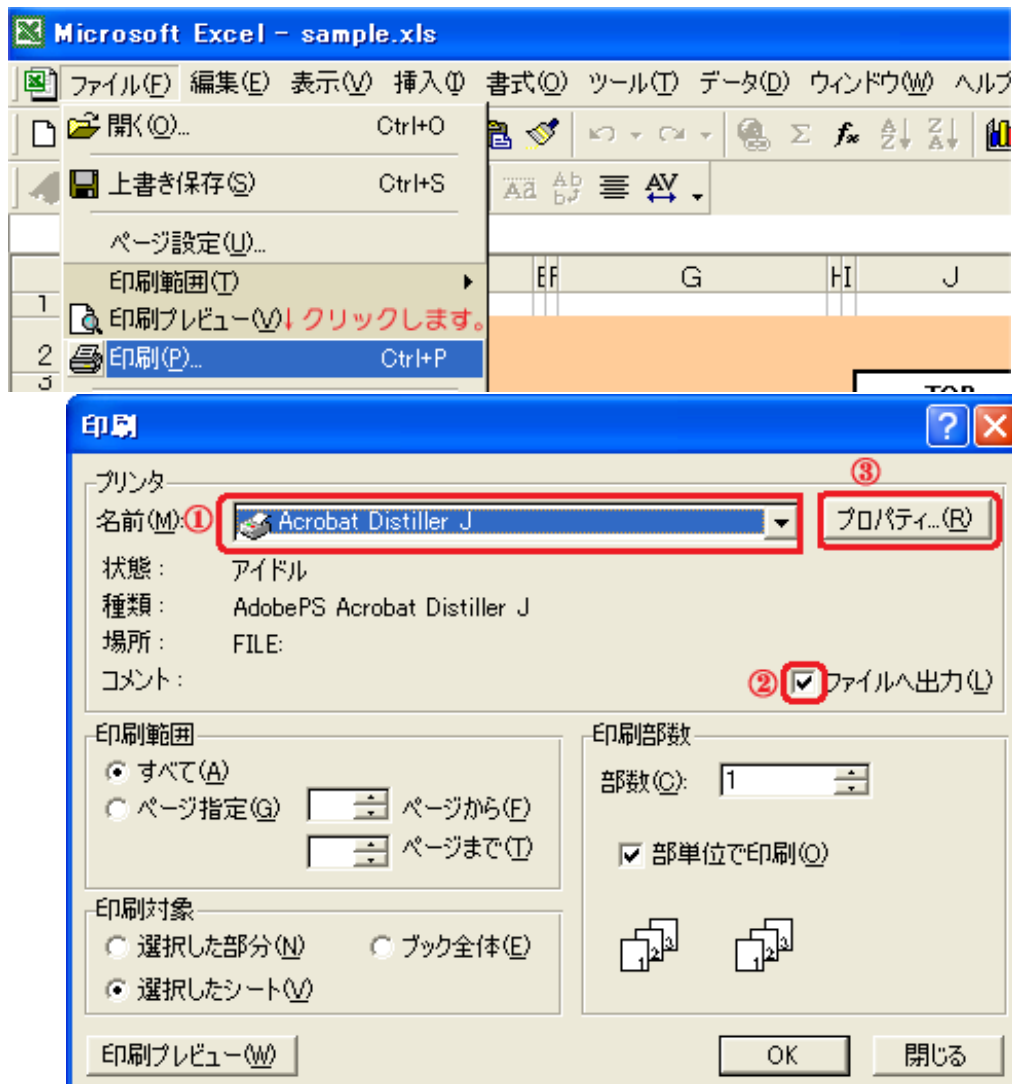
素材が把握できましたか？

このサンプルの場合は、
 サイズは、B5サイズの「横」むきで182mm×257mmです。
 余白は、「上」2.4mm「下」2.5mm「左」0.6mm「右」0.5mmです。
 ヘッダー・フッターは、それぞれ、1.1mm1.2mmになっています。
 レイアウトは、人それぞれなので、おかしいと感じたら、
 プレビュー画面で、調整して「上書き保存」してかまいません。

これが、視覚的に見たものではなく、情報的な把握という事です。

PSプリンタで出力しましょう。

「ファイル」から「印刷」をクリックします。

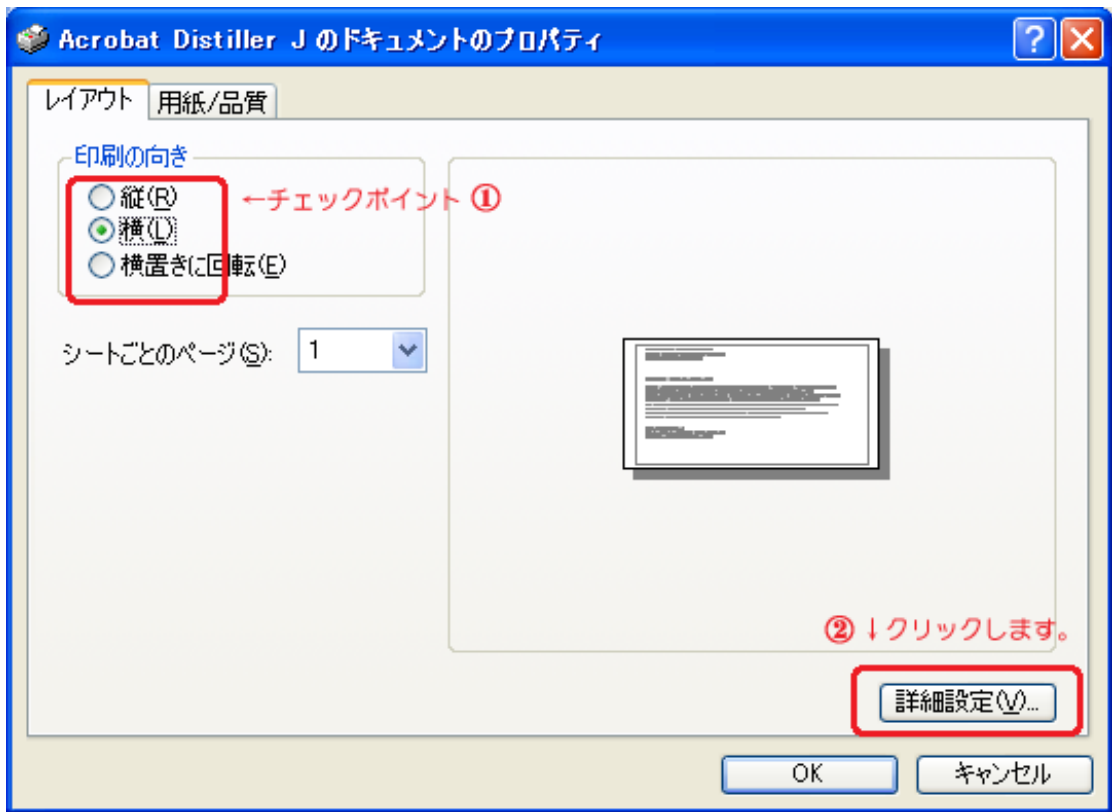


「名前」がAcrobat Distiller Jになっているか確認します。

なっていない場合は、 をクリックして選びます。

ファイルへ出力にチェックを入れます。

プリンタの「プロパティ」をクリックして、詳細設定を見えます。
 素材の情報どおりに、PSプリンタにも、反映されています。



品質を選びましょう。

Scenモード(見るだけ)なら、72dpiで充分です。

Printモード(印刷用)なら、300dpi以上で出力します。画像を出力するのなら高い方が美しいです。

しかし、もとの素材よりも、容量が重くなるのなら、PDFにする必要がありませんよね？

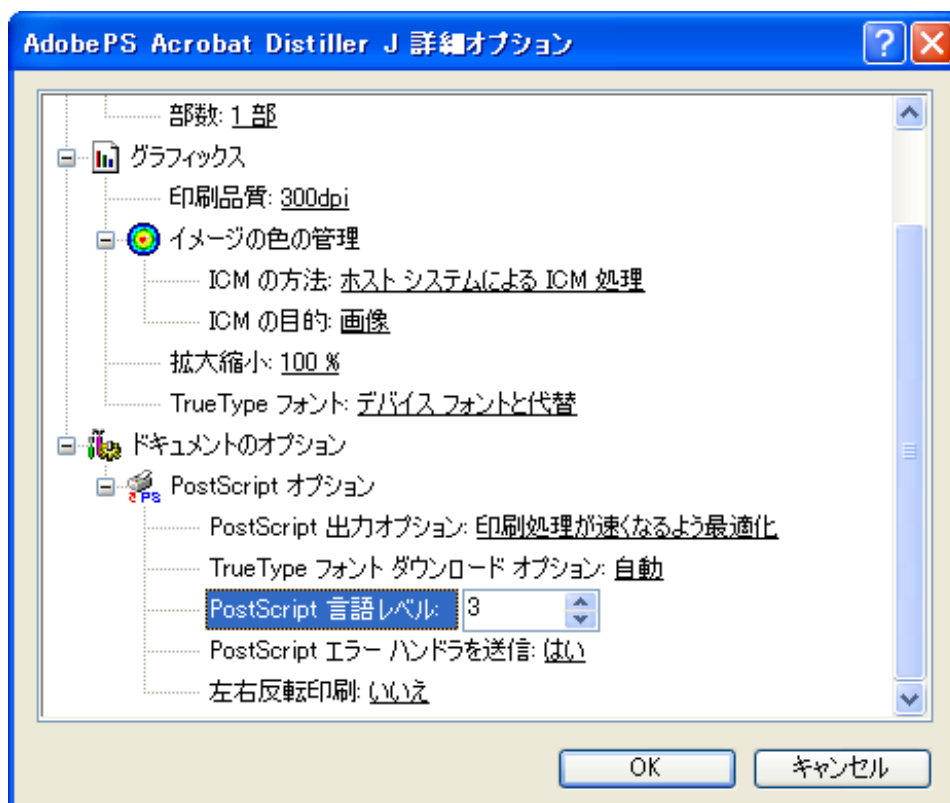
品質は、ほどほどに。ちなみに、私は、300dpiで作成しています。

重くても、600dpiまでで、それ以上は、あまり効果がないと、認識しています。



PostScript言語レベル

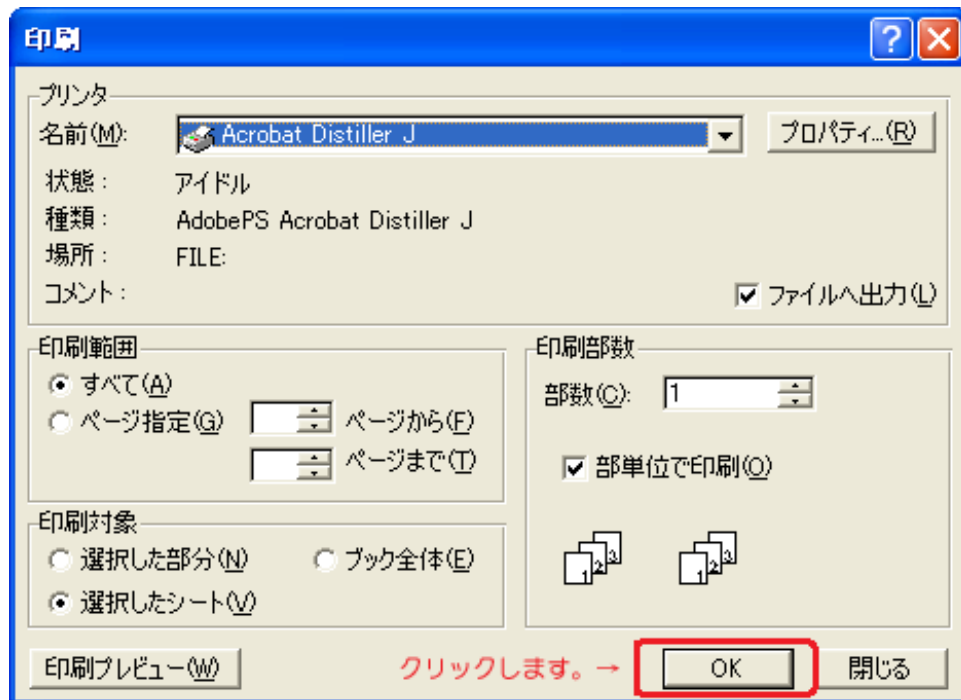
デフォルトで「3」になっているはずですが、違っていたら直しましょう。



色の管理とTrueTypeフォント

ここも、設定したはずですが、違っていたら直しましょう。

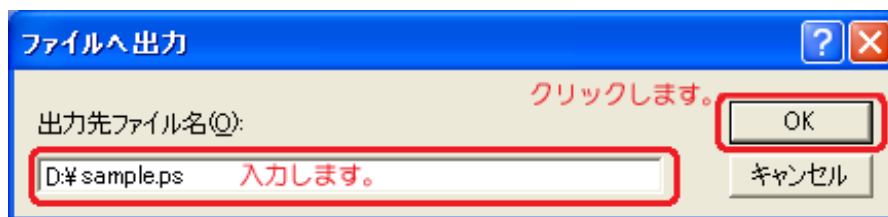




印刷範囲や印刷対象も選べます。条件に応じて、ラジオボタンを選びます。
 このサンプルの場合は、1ページしかないので、これでいいです。
 数ページある素材の場合は、ページ指定やブック全体に変更する事ができます。

「OK」ボタンをクリックします。

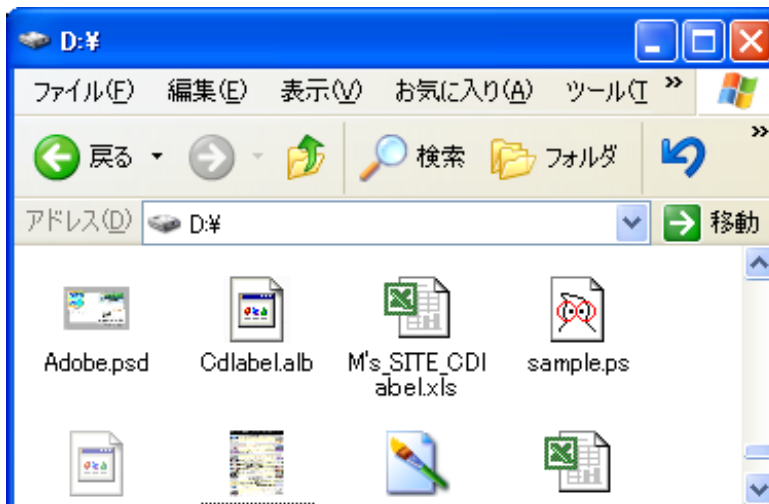
「出力先ファイル名」編集フォームに名前を入力します。
 この場合は、Dドライブに「sample」という名で保存されます。
 拡張子(.ps)をつけて下さい。(日本語は避けてください。)



「OK」ボタンをクリックします。

PSファイルをPDFへ変換しましょう。

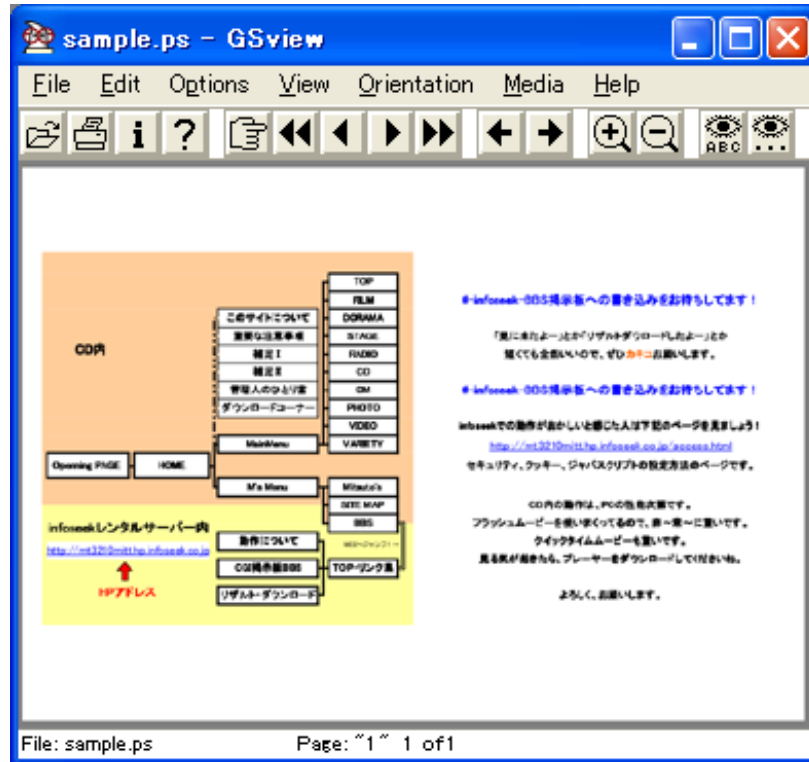
この場合は、Dドライブに保存したので、Dドライブを開きます。



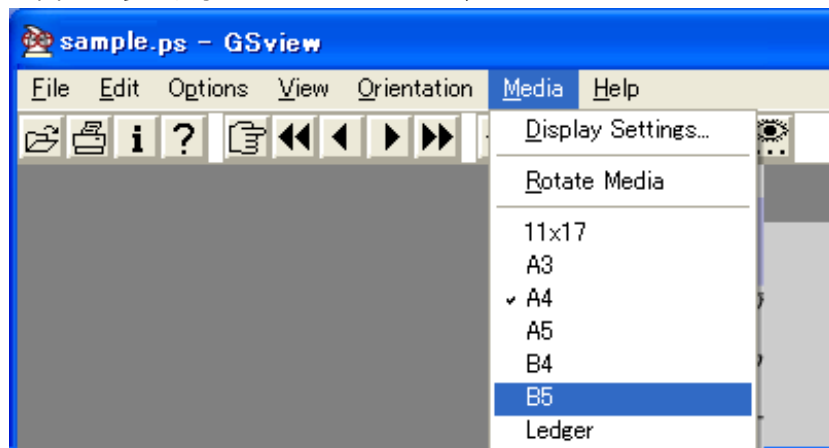
保存されたPSファイル(お化けのアイコン)をダブルクリックします。

GSview4.6が起動します。

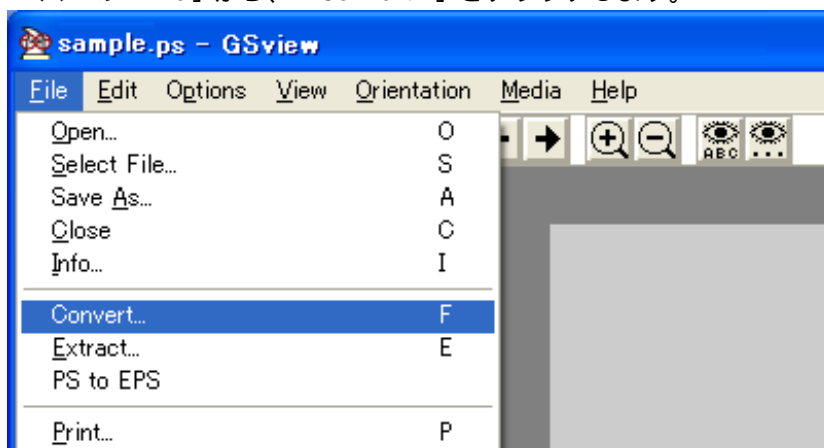
「GSview Registration」のウィンドウが開くので、[OK] ボタンをクリックしてください。

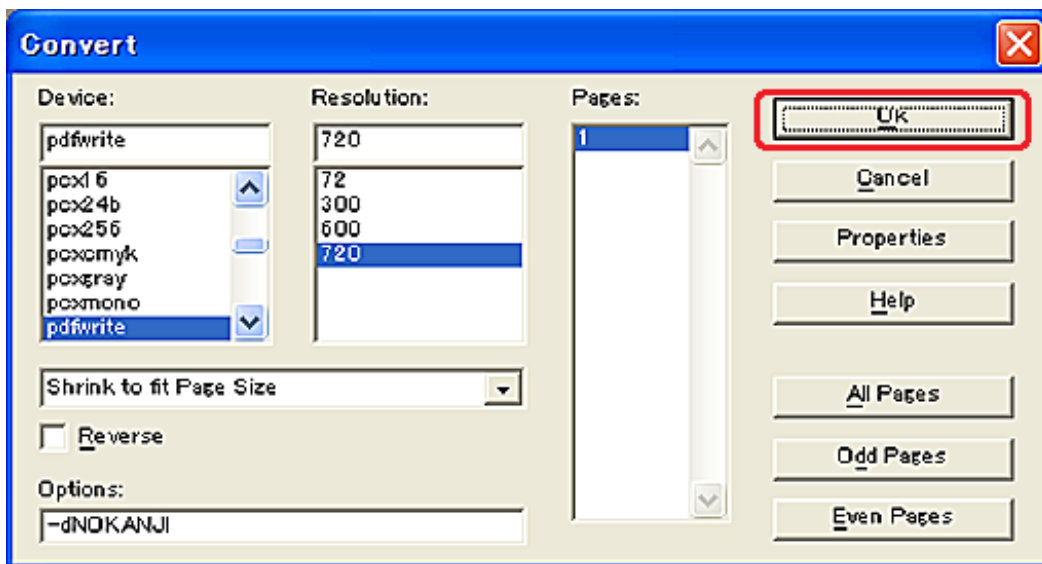


もし、上図のように表示されていなかったら、メニューバーの「Media」から「B5」を選びます。



メニューバーの「File」から、「Convert...」をクリックします。



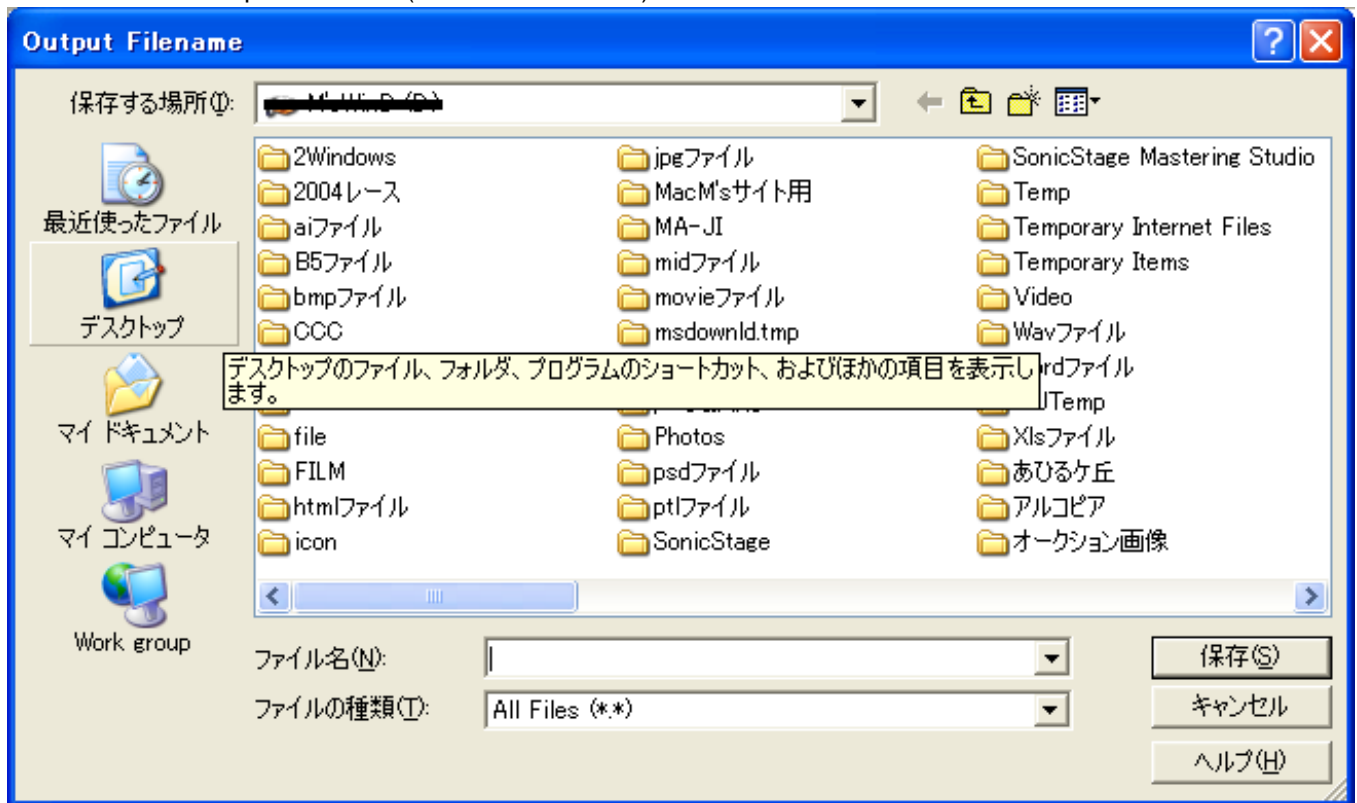


「Resolution」フォームは、お好きな品質を選んでください。

「Option」フォームに -dNOKANJI と入っているか、チェックします。

「OK」ボタンをクリックします。

Output Filename (名前をつけて保存)ダイアログボックスが開きます。



「保存する場所」を選び、「ファイル名」フォームに名前を入力します。
 拡張子(.pdf)をつけて下さい。(日本語は避けてください。)
 この場合は、「sample.pdf」という名で保存してみました。

できあがったものが、[これ](#)です。

どうですか？ 素材とほとんど変わらぬPDFファイルができあがります。

あとがき

これで、センタリングがずれる。レイアウトが変わる。文字が途中できれる。改行している。文字や絵が重なる。などの問題は、解消されます。

出来上がったPDFは、単なる静止画ではありません。
エクセルでつくってあるので、フォントが埋め込んであり、文字選択ツールで一部分だけコピーして、別の(メモ帳などの)ファイルにペーストしたりできます。。
もちろん、検索もできます。1ページしかないので、その甲斐もないですが、
試しに、「CD」などと入力して検索してもピックアップしてくれます。
これは数ページある素材でも同じです。フリーソフトで作ってもこれだけの事ができるのです。

ただ、アドレスはWEBにリンクしてありましたが、その機能はやはり、つきませんでした。
もちろん、フリーソフトでは、「しおり」「レイヤー」も、作れません。(縦書きセルも)
そういう機能まで埋め込みたいのならば、正規の優良?有料ソフトの購入を考えましょう。

今回のサンプルは、エクセルを利用しましたが、
他のソフトでも、「ページ設定」「印刷プレビュー」「印刷」の項目は、必ずあります。
かえって、他のソフトは、ページ設定が簡単だと思います。
ワードでは、ページ設定しなくても、プリンタ出力の時に拡大縮小できますし、
画像ソフトなら、尚更です。
このページがクリアできれば、もう怖いものなしです。自信をもってください。